



茨城県景気ウォッチャー調査

(平成18年9月調査分)

景気の現状判断DI

	平成18年6月	平成18年9月	前回調査比
茨城県	52.2	52.0	0.2
県北地域	49.2	49.1	0.1
県央地域	52.2	56.0	+3.8
鹿行地域	55.9	53.1	2.8
県南地域	52.1	52.6	+0.5
県西地域	51.7	49.1	2.6

景気の先行き判断DI

	平成18年6月	平成18年9月	前回調査比
茨城県	52.6	53.7	+1.1
県北地域	53.8	54.4	+0.6
県央地域	51.8	53.0	+1.2
鹿行地域	53.0	49.6	3.4
県南地域	56.8	60.1	+3.3
県西地域	47.9	51.3	+3.4

平成18年9月

茨城県企画部統計課

問い合わせ先
統計課企画分析グループ TEL:029-301-2642
ホームページアドレス
<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/bukka/watch/index.htm>

目 次

調査の概要	1
調査結果の概要	3
1 全県の動向	3
（1）景気の現状判断D I	3
（2）景気の先行き判断D I	4
2 地域別の動向	5
（1）景気の現状判断D I	5
（2）景気の先行き判断D I	7
3 回答率	10
景気の判断理由	11
1 景気の現状判断理由	11
2 景気の先行き判断理由	21
3 その他の意見	31

調査の概要

1 調査の目的

経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1) 対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市及び郡は以下のとおりである。

平成18年8月31日現在

地域	市及び郡
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、那珂郡、久慈郡
県央地域	水戸市、笠間市、小美玉市、東茨城郡
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

(2) 調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

【地域別・業種別調査客体数】

業種名	具	例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等		38	39	39	37	36	189
企業関連	製造業(食料品、一般機械器具等)、建設業、金融業		17	16	16	18	19	86
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等		5	5	5	5	5	25
	計		60	60	60	60	60	300

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断(方向性)
- (2) (1)の理由
- (3) 景気の先行きに対する判断(方向性)
- (4) (3)の理由
- (5) その他景気に関する意見(自由回答)

4 調査月及び調査期間

調査月は3月、6月、9月及び12月の年4回である。平成18年9月調査の調査期間は平成18年9月1日から9月30日である。

5 利用上の注意

- (1) 景気動向指数(DI)は景気の方角性を判断するものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

景気動向指数(DI)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、景気動向指数(DI)を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良くな っている	変わらない	やや悪くな っている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良くな っている	変わらない	やや悪くな っている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなって いる	やや良くな っている	変わらない	やや悪くな っている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、

$$(1 \times 15.0) + (0.75 \times 27.0) + (0.5 \times 25.0) + (0.25 \times 11.0) + (0 \times 22.0) = 50.5 \text{ となる。}$$

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5 \times 100) = 50$ となることから、50を上回っているときは、景気の上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気の下降局面にあるといえる。

調査結果の概要

1 全県の動向

(1) 景気の現状判断DI

3か月前と比較した景気の現状判断DIは52.0となった。「良くなっている」の回答構成比が減少し、「悪くなっている」「やや悪くなっている」の回答構成比が増加したため、6月調査分より0.2ポイント低下したものの、横這いを表す50を4期連続で上回った。業種別にみると、企業動向関連DIは6月調査分を上回ったものの、家計動向関連DI及び雇用関連DIは6月調査分を下回った。

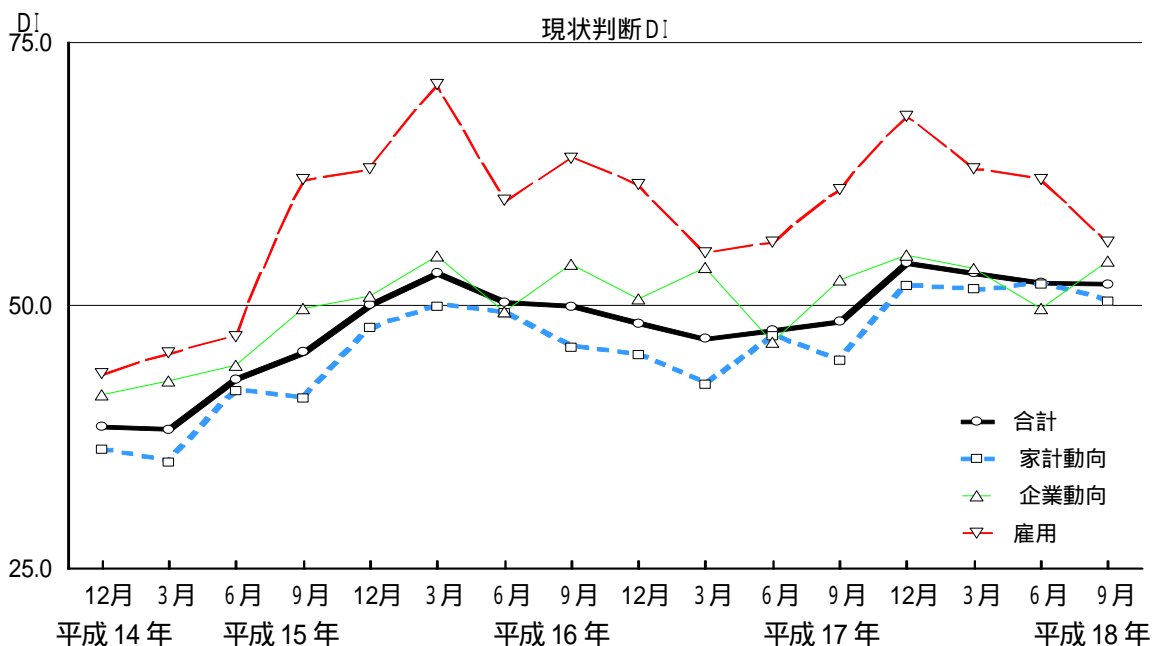
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成17年 9月	平成17年 12月	平成18年 3月	平成18年 6月	平成18年 9月
合計		48.5	54.1	53.1	52.2	52.0
家計動向関連		44.8	51.9	51.6	52.0	50.4
小売関連		47.4	50.7	53.3	52.4	53.2
飲食関連		45.0	53.6	61.3	53.6	46.3
サービス関連		40.9	51.5	46.3	50.6	48.7
住宅関連		58.3	61.1	63.9	58.3	52.8
企業動向関連		52.4	54.8	53.5	49.7	54.2
農林水産業		46.9	50.0	43.8	43.8	46.9
製造業		50.0	53.2	51.0	49.0	52.3
非製造業		57.8	58.6	60.0	52.6	58.6
雇用関連		61.0	68.0	63.0	62.0	56.0

表1-2 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成17年 9月	1.4%	22.0%	51.8%	18.8%	6.0%
平成17年 12月	4.5%	29.6%	47.1%	15.8%	3.1%
平成18年 3月	2.8%	29.5%	48.6%	15.6%	3.5%
平成18年 6月	3.1%	22.7%	56.9%	14.6%	2.7%
平成18年 9月	2.8%	28.1%	47.0%	18.6%	3.5%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは53.7となった。「悪くなっている」の回答構成比が減少し、「良くなっている」「やや良くなっている」の回答構成比が増加したため、6月調査分より1.1ポイント上昇し、横這いを表す50を5期連続で上回った。業種別にみると、家計動向関連DI及び雇用関連DIは6月調査分を上回ったものの、企業動向関連DIは6月調査分を下回った。

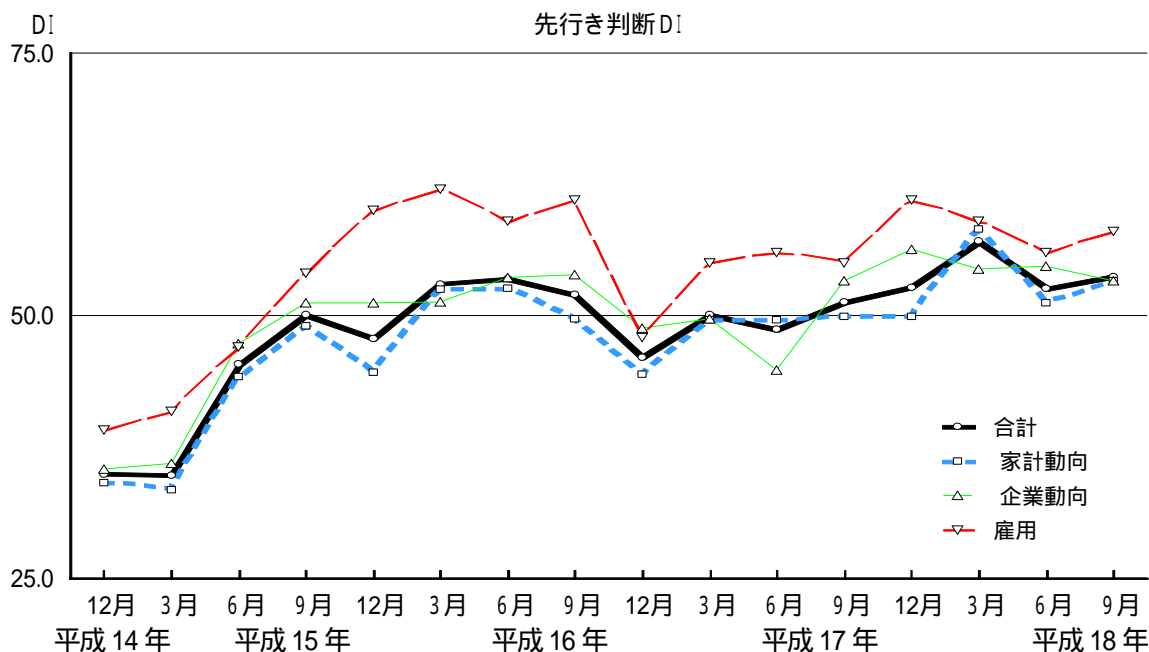
表1 - 3 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成17年	平成17年	平成18年	平成18年	平成18年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		51.3	52.7	57.1	52.6	53.7
家計動向関連		49.9	49.9	58.2	51.2	53.3
小売関連		47.8	52.8	58.8	52.1	51.4
飲食関連		47.5	42.9	68.8	50.0	63.8
サービス関連		51.0	48.1	54.7	49.7	52.3
住宅関連		61.1	58.3	61.1	61.1	52.8
企業動向関連		53.3	56.3	54.4	54.7	53.3
農林水産業		40.6	50.0	53.1	53.1	59.4
製造業		52.2	53.7	52.1	53.6	54.0
非製造業		58.6	62.1	58.3	56.9	50.8
雇用関連		55.0	61.0	59.0	56.0	58.0

表1 - 4 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成17年 9月	1.8%	28.0%	48.6%	17.0%	4.6%
平成17年 12月	3.8%	26.8%	48.8%	17.5%	3.1%
平成18年 3月	4.2%	34.0%	50.0%	9.7%	2.1%
平成18年 6月	1.7%	26.1%	55.3%	14.9%	2.0%
平成18年 9月	3.9%	26.7%	51.6%	16.1%	1.8%

図1 - 2 景気の先行き判断DIの推移



2 地域別の動向

(1) 景気の現状判断DI

県北地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは49.1となった。6月調査分より0.1ポイント低下し、横這いを表す50を3期連続で下回った。業種別にみると、企業動向関連DIは6月調査分を上回ったものの、家計動向関連DI及び雇用関連DIは6月調査分を下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成17年	平成17年	平成18年	平成18年	平成18年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		41.2	52.2	46.6	49.2	49.1
	家計動向関連	35.7	51.4	43.8	47.4	45.0
	企業動向関連	48.5	51.5	48.5	51.5	57.4
	雇用関連	55.0	60.0	60.0	55.0	50.0

表2-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成17年 9月	0.0%	15.8%	47.4%	22.8%	14.0%
平成17年 12月	5.2%	29.3%	37.9%	24.1%	3.4%
平成18年 3月	0.0%	24.1%	43.1%	27.6%	5.2%
平成18年 6月	0.0%	21.7%	58.3%	15.0%	5.0%
平成18年 9月	5.3%	21.1%	43.9%	24.6%	5.3%

県央地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは56.0となった。6月調査分より3.8ポイント上昇し、横這いを表す50を4期連続で上回った。また、現状判断DIは全県を通じて最高であった。業種別にみると、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは6月調査分を上回ったものの、雇用関連DIは6月調査分を下回った。

表2-3 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成17年	平成17年	平成18年	平成18年	平成18年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		49.6	50.9	54.5	52.2	56.0
	家計動向関連	46.7	48.0	52.2	51.4	56.8
	企業動向関連	53.1	54.7	57.8	48.3	54.7
	雇用関連	60.0	60.0	60.0	70.0	55.0

表2-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成17年 9月	1.7%	20.3%	59.3%	11.9%	6.8%
平成17年 12月	3.4%	22.4%	53.4%	15.5%	5.2%
平成18年 3月	3.6%	29.1%	52.7%	10.9%	3.6%
平成18年 6月	5.3%	19.3%	57.9%	14.0%	3.5%
平成18年 9月	5.2%	29.3%	53.4%	8.6%	3.4%

鹿行地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは53.1となった。6月調査分より2.8ポイント低下したものの、横這いを表す50を4期連続で上回った。業種別にみると、企業動向関連DIは6月調査分を上回ったものの、家計動向関連DI及び雇用関連DIは6月調査分を下回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成17年	平成17年	平成18年	平成18年	平成18年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		48.1	54.3	51.3	55.9	53.1
	家計動向関連	46.3	50.7	50.7	56.6	49.3
	企業動向関連	48.3	57.8	51.6	51.6	60.9
	雇用関連	60.0	70.0	55.0	65.0	55.0

表2-6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成17年 9月	3.7%	16.7%	51.9%	24.1%	3.7%
平成17年 12月	1.7%	29.3%	55.2%	12.1%	1.7%
平成18年 3月	0.0%	28.8%	50.8%	16.9%	3.4%
平成18年 6月	3.4%	30.5%	54.2%	10.2%	1.7%
平成18年 9月	1.8%	29.8%	49.1%	17.5%	1.8%

県南地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは52.6となった。6月調査分より0.5ポイント上昇し、横這いを表す50を5期連続で上回った。業種別にみると、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは6月調査分を上回ったものの、雇用関連DIは6月調査分を下回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成17年	平成17年	平成18年	平成18年	平成18年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		53.0	60.8	57.6	52.1	52.6
	家計動向関連	52.1	60.1	59.0	52.8	54.4
	企業動向関連	52.9	60.9	48.6	45.8	48.6
	雇用関連	60.0	65.0	80.0	70.0	55.0

表2-8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成17年 9月	1.7%	31.0%	46.6%	19.0%	1.7%
平成17年 12月	8.6%	37.9%	43.1%	8.6%	1.7%
平成18年 3月	8.5%	33.9%	40.7%	13.6%	3.4%
平成18年 6月	3.4%	23.7%	54.2%	15.3%	3.4%
平成18年 9月	1.8%	35.1%	40.4%	17.5%	5.3%

県西地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは49.1となった。6月調査分より2.6ポイント低下し、横這いを表す50を5期ぶりに下回った。また、現状判断DIは全県を通じて最低であった。業種別にみると、雇用関連DIは6月調査分を上回ったものの、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは6月調査分を下回った。

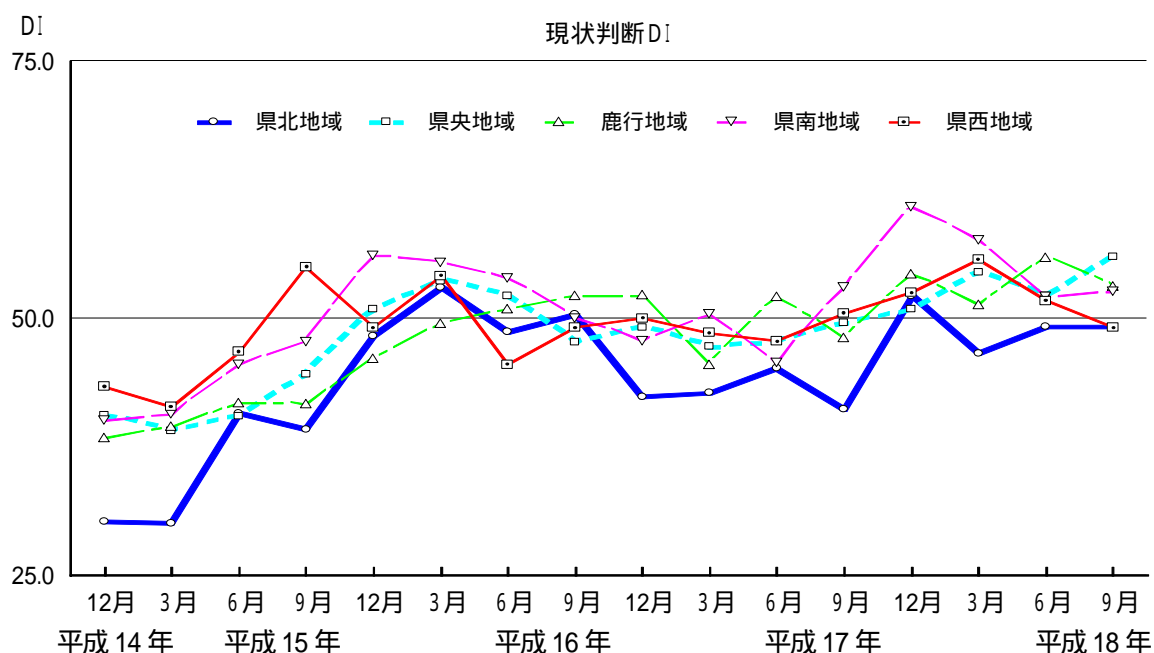
表2 - 9 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成17年	平成17年	平成18年	平成18年	平成18年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		50.5	52.5	55.7	51.7	49.1
家計動向関連		42.7	49.3	52.3	52.1	46.3
企業動向関連		58.3	50.0	60.5	51.3	50.0
雇用関連		70.0	85.0	60.0	50.0	65.0

表2 - 10 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成17年 9月	0.0%	25.9%	53.7%	16.7%	3.7%
平成17年12月	3.4%	28.8%	45.8%	18.6%	3.4%
平成18年 3月	1.8%	31.6%	56.1%	8.8%	1.8%
平成18年 6月	3.3%	18.3%	60.0%	18.3%	0.0%
平成18年 9月	0.0%	25.0%	48.2%	25.0%	1.8%

図2 - 1 地域別現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

県北地域

3か月先の景気の先行き判断DIは54.4となった。6月調査分より0.6ポイント上昇し、横這いを表す50を3期連続で上回った。業種別にみると、雇用関連DIは6月調査分を上回ったものの、企業動向関連DIは横這い、家計動向関連DIは6月調査分を下回った。

表2 - 11 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成17年	平成17年	平成18年	平成18年	平成18年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		49.6	49.1	51.7	53.8	54.4
家計動向関連		47.1	43.1	51.4	52.0	51.4
企業動向関連		52.9	57.4	54.4	60.3	60.3
雇用関連		55.0	65.0	45.0	45.0	55.0

表2 - 12 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成17年 9月	1.8%	21.1%	56.1%	15.8%	5.3%
平成17年12月	5.2%	19.0%	46.6%	25.9%	3.4%
平成18年 3月	0.0%	34.5%	43.1%	17.2%	5.2%
平成18年 6月	1.7%	28.3%	55.0%	13.3%	1.7%
平成18年 9月	5.3%	24.6%	54.4%	14.0%	1.8%

県央地域

3か月先の景気の先行き判断DIは53.0となった。6月調査分より1.2ポイント上昇し、横這いを表す50を7期連続で上回った。業種別にみると、家計動向関連DIは6月調査分を上回ったものの、雇用関連DIは横這い、企業動向関連DIは6月調査分を下回った。

表2 - 13 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成17年 9月	平成17年 12月	平成18年 3月	平成18年 6月	平成18年 9月
	合計		53.4	52.6	55.9	51.8
	家計動向関連	48.7	48.0	56.6	50.0	53.4
	企業動向関連	62.5	62.5	51.6	50.0	46.9
	雇用関連	60.0	55.0	65.0	70.0	70.0

表2 - 14 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成17年 9月	3.4%	28.8%	49.2%	15.3%	3.4%
平成17年12月	8.6%	20.7%	48.3%	17.2%	5.2%
平成18年 3月	5.5%	27.3%	54.5%	10.9%	1.8%
平成18年 6月	3.5%	15.8%	68.4%	8.8%	3.5%
平成18年 9月	3.4%	25.9%	51.7%	17.2%	1.7%

鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断DIは49.6となった。6月調査分より3.4ポイント低下し、横這いを表す50を7期ぶりに下回った。また、先行き判断DIは全県を通じて最低であった。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが6月調査分を下回った。

表2 - 15 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成17年 9月	平成17年 12月	平成18年 3月	平成18年 6月	平成18年 9月
	合計		50.9	52.2	59.3	53.0
	家計動向関連	52.2	48.6	59.9	50.7	48.6
	企業動向関連	51.7	57.8	57.8	56.3	51.6
	雇用関連	40.0	60.0	60.0	60.0	50.0

表2 - 16 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成17年 9月	1.9%	22.2%	55.6%	18.5%	1.9%
平成17年12月	1.7%	22.4%	62.1%	10.3%	3.4%
平成18年 3月	3.4%	39.0%	50.8%	5.1%	1.7%
平成18年 6月	0.0%	30.5%	52.5%	15.3%	1.7%
平成18年 9月	0.0%	19.3%	61.4%	17.5%	1.8%

県南地域

3か月先の景気の先行き判断DIは60.1となった。6月調査分より3.3ポイント上昇し、横這いを表す50を5期連続で上回った。また、先行き判断DIは全县を通じて最高であった。業種別にみると、家計動向関連DIは6月調査分を上回ったものの、雇用関連DIは横這い、企業動向関連DIは6月調査分を下回った。

表2 - 17 景気の先行き判断DI

分野	調査日時				
	平成17年 9月	平成17年 12月	平成18年 3月	平成18年 6月	平成18年 9月
合計	54.7	56.9	64.0	56.8	60.1
家計動向関連	54.2	57.4	66.7	56.3	62.5
企業動向関連	52.9	53.1	56.9	58.3	56.9
雇用関連	65.0	65.0	70.0	55.0	55.0

表2 - 18 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成17年 9月	1.7%	41.4%	36.2%	15.5%	5.2%
平成17年12月	1.7%	43.1%	37.9%	15.5%	1.7%
平成18年 3月	10.2%	42.4%	42.4%	3.4%	1.7%
平成18年 6月	1.7%	39.0%	47.5%	8.5%	3.4%
平成18年 9月	7.0%	40.4%	40.4%	10.5%	1.8%

県西地域

3か月先の景気の先行き判断DIは51.3となった。6月調査分より3.4ポイント上昇し、横這いを表す50を2期ぶりに上回った。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが6月調査分を上回った。

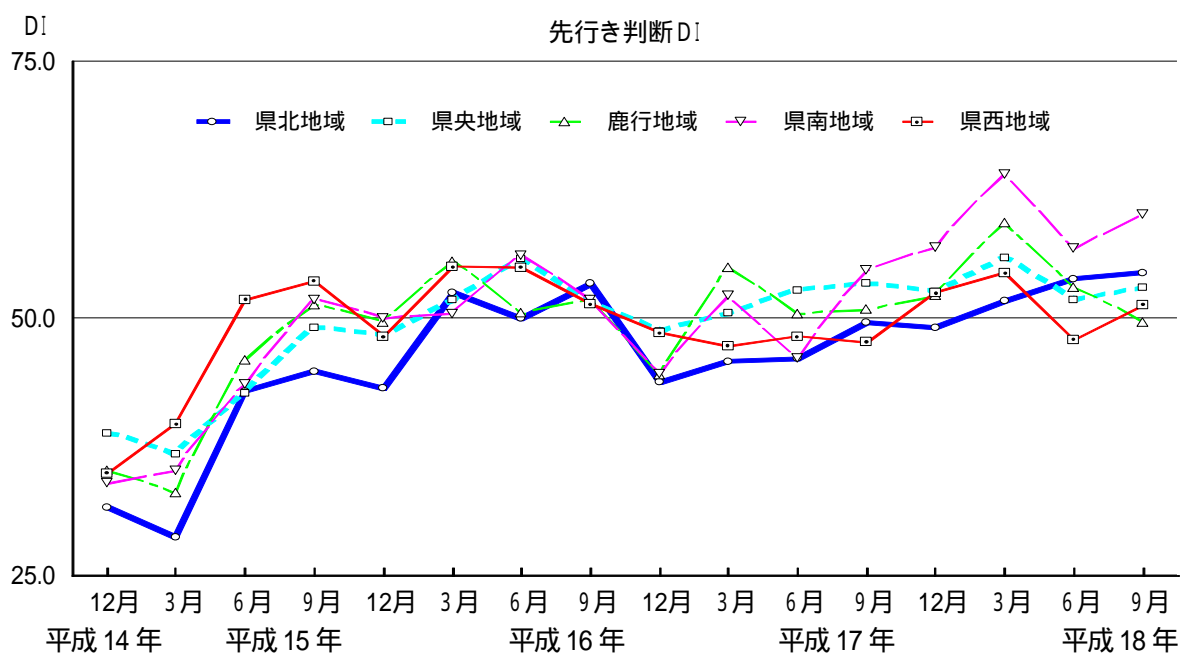
表2 - 19 景気の先行き判断DI

分野	調査日時				
	平成17年 9月	平成17年 12月	平成18年 3月	平成18年 6月	平成18年 9月
合計	47.7	52.5	54.4	47.9	51.3
家計動向関連	46.8	52.1	56.1	47.2	50.7
企業動向関連	47.2	51.3	51.3	48.7	50.0
雇用関連	55.0	60.0	55.0	50.0	60.0

表2 - 20 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成17年 9月	0.0%	25.9%	46.3%	20.4%	7.4%
平成17年12月	1.7%	28.8%	49.2%	18.6%	1.7%
平成18年 3月	1.8%	26.3%	59.6%	12.3%	0.0%
平成18年 6月	1.7%	16.7%	53.3%	28.3%	0.0%
平成18年 9月	3.6%	23.2%	50.0%	21.4%	1.8%

図2 - 2 地域別先行き判断DIの推移



3 回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	285 人	95.0%
県北地域	60 人	57 人	95.0%
県央地域	60 人	58 人	96.7%
鹿行地域	60 人	57 人	95.0%
県南地域	60 人	57 人	95.0%
県西地域	60 人	56 人	93.3%

景気の判断理由

1 景気の現状判断理由

(1) 県北地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良くなっている	家計	スーパー	高品質の食料品の売行きがよく、8月・9月の売上げが上昇している。また、他企業の売上げも順調であると思われる。
		居酒屋	大手企業の利用が増加している。また、会社の接待等での利用が大幅に増加しており、企業の業績が改善した影響が感じられる。
	企業	製造業（電気機械器具）	営業での受注物件が増加し、自社工場内では消化しきれなくなっているが、協力工場に依頼しても断られる状況である。
やや良くなっている	家計	スーパー	客単価及び売上げが上昇しており、ギフト商品、高額商品の伸びも良い。
		スーパー	ギフト商品など的高額商品の売上げが伸びている。また、客単価もアップしている。
		農産物直売所	観光客の増加に伴い、売上げが伸びている。
		観光型ホテル	海岸沿いに立地しているため、夏休みの宿泊客が増加している。
		ゴルフ場	前年より安い料金設定にもかかわらず、来場者数は減少気味であったものの、単価には変化がなかった。県北地域は料金設定の差により収容組数に大きな差が見られる。地元客は、安い料金でプレー回数を増やしたいという傾向が強く、トータルで見るとプレー費は増加している。また、首都圏の客は単価を多めに見積もっている傾向があり、都心部と地方の差を感じながらも、少しずつ明るさが見えてきている。
	企業	林業関係者	梅雨時期に木材が不足していたためか価格が変動している。
		製造業（食料品）	材料費や燃料代の高騰を販売価格へ転嫁できず収益は増加していないものの、売上げは上向きとなっている。
		製造業（電気機械器具）	受注状況が良くなっている。
		製造業（電気機械器具）	取引先において、携帯電話の中継基地に関する仕事が忙しい。また、リフォーム住宅の付属部品関連の仕事も忙しくなってきた。
		製造業（電気機械器具）	輸出案件が増加した。
		情報通信業（情報サービス業）	今年度予算に対する発注が増加してきた。
		不動産業	郊外の物件は依然として好調の兆しが見えないが、市街地の分譲住宅や分譲マンションは順調に推移しており、新規計画の物件もある。
	変わらない	家計	コンビニエンスストア
衣料品販売店			客数、客単価ともに変化がない。
家電販売店			季節変動はあるが、売上げの前年比に変化がない。
レストラン			売上げに変化がない。
旅行代理店			受注金額、単価ともに上昇していない。
タクシー運転手			電力需要の関係で工場がしばらく休業するため、夏場の客数は例年減少する。
タクシー運転手			地元企業の客が減少しており、接待もあまりない。また、自家用車やバスの利用が多い。
タクシー運転手			4月から5月前半くらいまでは多少動きがあったが、その後は変化が見られず景気は今一つである。
タクシー運転手			売上げに変化がない。また、地元の工場においても深夜残業が増えたなど、仕事が忙しくなった様子も見られない。
ドライブイン			8月の売上げは昨年をやや上回ったものの、現在は秋の行楽シーズン前のため、落ち着いた状況である。
美容室			景気に変化するような要因がなかった。
企業			製造業（電気機械器具）
		製造業（電気機械器具）	相変わらず従業員の残業は多く、引き続き好調が続いている。

(1) 県北地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	企業	建設業	設備投資は活発になってきているようではあるが、全体が上向いているのではなく、金利の上昇も影響し、依然として低迷している企業も見受けられる。
		建設業	原油価格の高騰が製品価格に転嫁されてデフレが解消されるか、それとも負担になるか懸念される。
		金融業	世間では金利の上昇など、景気回復の話聞くが、取引先からは、売上げや受注予約が増加しているなどの話は聞かれない。
	雇用	人材派遣業	引き続き好調を維持している。
		求人広告	受注は増加しているものの、採用に繋がるような人材も少なく、人材不足の企業が多い。
公共職業安定所		求人数は一部医療福祉関係で増加しているものの、全体的には減少傾向で推移している。また、求職者数においても、昨年は大手百貨店が閉店した影響で増加していたが、今年は減少している。	
学校就業関係者		学生に対する求人数に変化がない。また、企業からの講座受講者数にも変化がない。	
求人開拓員	自動車関連事業所では以前より仕事が増えたため、作業員の募集があるが、単価アップまでには至っておらず、まだまだ景気が良くなったとは感じられない。		
や や 悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者	買物客は駐車場のない商店街よりも、郊外の大型店へシフトしている。また、長雨が8月にまで及んだため、売上げが減少している。
		衣料品販売店	客数の減少はそれ程ではないものの、客単価が確実に減少している。
		自動車販売店	業界では軽乗用車の売上げは好調である一方、普通車は前年比マイナスの状況である。業界全体で見ればやや良くなっていると思われるが、普通車を取り扱っている当社においてはやや悪化していると思われる。
		ガソリンスタンド	夏の天候不順と仕入れ価格の連日の高騰によりマージンが減少している。また、商店においては大型店の出店により売上げが半減しており、建設業においても仕事がない状況とのことである。
		小売業（酒類）	大手企業を始め、各企業がお盆の大型連休に入った後は来店客数が減少した。取引先の飲食店においても客数が減少し厳しい状況のようである。
		スナック	例年のことではあるが、8月は盆や帰省にお金がかかるためもしくは休みが多いため客足が遠のくので、売上げが年間をとおして最低になる。
		和食食堂	7月中旬から8月末にかけて人の流れが止まり、昼は変わらないものの、夜の売上げがさっぱりであった。特に、土日祝日の売上げが落ち込んでおり、ニューポートひたちなかファッションクルーズがオープンした影響ではないかと思われる。
		ゲームセンター	客単価が低下傾向にある。無駄遣いにならないよう、使う金額を決めているようである。
		レジャー施設	手作り弁当やコンビニ袋を持ち込んで飲食する客が増えたため、客単価が減少している。
		レジャー施設	ニューポートひたちなかファッションクルーズがオープンしたことによる相乗効果を期待していたが、売上げ、客単価とも前年に比べ減少している。
	クリーニング店	客数及び客単価が減少している。	
	住宅販売会社	来場者数が激減しており、また金利の上昇、ガソリン価格の高騰、地元企業の不景気などにより景気は悪くなっている。	
企業	製造業（電気機械器具）	コストダウンに取り組んでいるが、石油関連品、ニッケル・銅など、原材料価格の高騰により現状維持も厳しい状況となっている。	
	製造業（輸送用機械器具）	原油、銅、ニッケルなどの市況価格が依然高止まりしており、特にニッケルの物量確保に不安がある。また、価格変化を契約に展開できる環境にはないため、収益の悪化が続いている。さらに、国内販売も不振であり、作業量も減少傾向にある。	
悪 く な っ て い る	家計	コンビニエンスストア	昨年比で売上げが悪化している。また、客単価の下落が止まらない。
		観光型ホテル	宿泊客、日帰り客ともに大きく減少している。
	企業	水産業関係者	沿岸漁業の極端な不漁により、漁業者、加工業者、冷凍業者は甚だ不景気である。

(2) 県央地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良くなっている	家計	農産物直売所	ボーナスの影響のためか、商品単価が前期比3%、客単価が前期比で16%伸びている。
		住宅販売会社	来場者数が増加している。
	企業	サービス業(コカク外業)	ファンドマネーにより駅周辺にマンションが建設されている。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	以前は、品質より価格重視であったように感じられたが、最近では客の購買力が向上したためか、単価が上昇しているように思われる。
		百貨店、総合スーパー	流行品やグレードの高い商品の売行きが好調になってきており、客単価も僅かながら上昇している。
		スーパー	少しずつではあるが、一人当たりの買上点数及び客単価が伸びている。
		スーパー	客数及び買上点数が増加している。
		専門スーパー	4月から7月の売上げが非常に悪かったが、8月から上向きとなり9月も順調に推移している。
		都市型ホテル	人の動きが活発になってきており、消費意欲が見受けられる。
		観光型ホテル	夏休みや連休での個人商品の売行きが堅調であった。また、高額企画も好調である。
		ドライブイン	8月の売上げは増加しており、少しずつではあるが客の消費も活発になっていると思われる。
		観光名所	安定した天候が続いており、また近隣に子供向けの施設がオープンしたため、人出がやや増加しているように感じられる。特に、レストランは良くなってきている。
		レジャー施設	今年の夏は、天候不順により施設利用日数は減少したものの、利用客数は昨年より微増した。
		レジャー施設	前期は入場者数が前年割れしていたが、このところ前年を上回る入場者を確保している。
		建築設計事務所	ここ数ヶ月、ワンランク上のマイホームを求める一般サラリーマン世帯を見かける。子供の教育費などで出費が高む中でも一定以上のものを求めているのは、先行きに明るさが見えているためであると思われる。
		良くなる	企業
製造業(精密機械器具)	前年比で出荷台数が約1.5倍になる商品があるなど、売上げも前年比で数百万円ほど増加している。		
建設業	土地の動きが出てきている。また、マンション建設が活発である。		
金融業	鉄骨建築関連業者は郊外型大型量販店からの受注が伸びている状況である。今後も建築受注案件は続き、受注高は暫く安定するとのことである。		
雇用	公共職業安定所	有効求人倍率は前年同月比で4.1か月連続改善している。また、有効求職者は5か月連続、雇用保険受給者実人員は6か月連続と、ともに減少しており、雇用情勢に明るさが見えてきている。	
変わらない	家計	百貨店、総合スーパー	季節変動を除けば、単価などに大きな変化は感じられない。
		スーパー	買上点数及び客単価が思うように伸びていない。
		スーパー	特売品などでの集客はあるが、それ以外では売上げに繋がらない。
		自動車販売店	車市場は縮小傾向にあり、また代替年数も長くなってきている。
		専門スーパー	5月以降、建築資材や土木関係の材料などの動きが良く、現在もこの動きが継続している。客との会話においても不景気という言葉は聞かれない。
		レストラン	暑気払いなどで客足は伸びたが、大きな宴会はなく、小グループでの利用が目立った。また、ボーナスが下がったという声もあり、景気に変化はないと思われる。
		割烹料理店	週によって忙しい日と暇な日とでバラツキがあるものの、景気に変化はない。
		タクシー運転手	営業回数も少なく、売上げの伸びがない。
タクシー運転手	昨年と比較すると若干良いように思われるが、3か月前とは売上げに変化が見られない。		

(2) 県央地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
変 わ ら な い	家計	タクシー運転手	客の収入に変化がなく、景気は変わらない。
		ドライブイン	来客数は増加しているが単価が減少しているため、売上げに変化はない。
		パチンコ店	売上げ及び利益にあまり変化が感じられない。客の動向を見ても、一人当たりの客滞率は伸びているものの、集客数は減少しているように感じられる。
		ゲームセンター	水戸市を中心に大型商業施設のオープンが終わり、客の施設の選別が出てきている。
	企業	製造業(食料品)	販売数量、販売額ともに改善が見られない。
		製造業(金属製品)	売上高に変化がなく、取引先にも動きがない。
		運輸業(道路貨物運送業)	原料価格が上昇しているが、製品価格には転嫁できていないようである。
		情報通信業(情報サービス業)	大企業では上昇、中小企業では横這いもしくは下降といったように、景気に対する見方が乖離してきている。しかし、市場から見ると景気が悪化しているような動きは見られず、景況感は横這いであると感じられる。
		不動産業	来店客数に変化がない。
		サービス業(広告業)	大型ショッピングモールがオープンしたが、販促関係は県外の本社で扱っているため、予算規模の小さいものしか受注できない。また、既存の顧客からの受注がほとんどであり、大きな販促予算の拡大の話は出てきていない。
雇用	人材派遣業	正社員の雇用が増加しているが、派遣社員には大きな変化はない。	
	学校就業関係者	就職活動の前半戦が終わった6月以降、内定率が上昇したという情報もない。	
	求人開拓員	求人状況、求職者数とも変化がない。	
やや悪 くなっ ている	家計	商店街代表者	原油高により原材料費が値上がり傾向にあり、経費削減を強化するという話をよく耳にする。
		コンビニエンスストア	販売動向が良くなく、買上点数も伸び悩んでいる状況である。
		タクシー運転手	夏休みも終わってイベントや行事が少なくなり、人の動きも少なくなっている。
		ゴルフ場	予約件数が減少している。特に、非会員の来場割合が大幅に減少しておりシーズンオフ並みである。割引などの優待制度を実施しているが、プレー料金を高いと感じている客が多いようだ。
	企業	製造業(食料品)	石油関連資材の値上げにより収益が悪化している。
悪 く	家計	美容室	お盆が忙しかった反動により9月は暇になっている。
	企業	製造業(窯業・土石製品)	受注件数、受注額、利益率とも低下している。

(3) 鹿行地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	企業	建設業	東京、埼玉などからの移住者が増加しており、建築が盛んになっている。
やや良くなっている	家計	スーパー	売上げが前年水準近くに回復している。
		スーパー	秋物商材や新商品の販売状況が良く、天候の影響で夏物処分セールや涼味商材もコンスタントに動いている。また、TVなどで話題となっている健康に関する商品の動きが以前より良くなったように感じられる。
		家電販売店	来店客がやや増加しており、売上げも伸びている。
		農産物直売所	客数が増加し、客単価も昨年より伸びている。また、取引先の仕入額も増加している。
		洋食食堂	客数、売上げともに前年比アップが続いている。
		割烹料理店	予約状況が良くなってきている。
		観光型ホテル	利用客が少し増加した。
		理容店	天候が不順であったことが、客数増加の要因であると思われる。
	企業	製造業（飼料）	鳥インフルエンザの終息宣言により、養鶏作業が再開され始め、飼料業界もやや回復しつつある。
		製造業（印刷・同関連業）	見積案件がやや増加したように感じられる。
		製造業（化学工業）	ナフサの値上がりはあるものの、販売量が増加しており良い方向である。
		製造業（窯業・土石製品）	大手鉄鋼業も計画通りに設備投資が進んでいる模様であり、当社においても計画通りに設備の改修が行われている。また、来春の新卒者の求人倍率は1倍台に回復し、県内採用も売手市場となっている。特に、若年男子の派遣契約者がほとんどおらず、正社員としての採用が増加していると思われることから、景気の回復感がうかがえる。
		運輸業（道路貨物運送業）	鹿島地域においては、荷動きが少し良くなっているように感じる。
		サービス業	盆明け後の受注が旺盛で活況を呈している。
雇用	学校就業関係者	学生の就職活動が始まったが、昨年より求人数が多いところを見ると、景気は良くなっていると思われる。	
変わらない	家計	商店街代表者	大手企業の好景気に支えられ、下請け事業所の仕事量は現状のまま推移している。一方、公共工事に依存している建設業者は厳しい状況にあるようである。
		商店街代表者	昨年未から今年初めにかけて景気上昇の話が聞かれたが、当地域においては昨年並みで定着している様子である。
		コンビニエンスストア	消費者の購買意欲が向上している様子は見られない。
		小売業（菓子販売店）	割引商品の売行きは良いが、通常商品はなかなか動かない。景気が良くなっているとは思えない。
		小売業（薬品店）	消費者は、直接現金で支払うことを控える傾向があり、特に、日用品や医療品ではその傾向が顕著である。
		小売業（金物店）	公共事業はやや減少しているものの、民間工事には変化がない。
		スナック	依然として景気の良い話が聞かれない。
		観光型ホテル	客の利用状況に変化がない。
		タクシー運転手	昼間の営業回数が減少している。
		ドライブイン	梅雨時は客足に影響がでたが、9月は例年通りとなっている。
		ゴルフ場	入場者数は横這いである。付帯売上げはやや増加しているが、プレー代を下げているため総売上げには変化がない。
		パチンコ店	客の滞留時間などに変化が見られない。

(3) 鹿行地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由	
変 わ ら な い	家計	住宅販売会社	景気の良い話も悪い話も聞かれない。	
		住宅販売会社	展示場への来場者数に大きな変化がない。	
	企業	水産業関係者	不漁、燃料の値上げに加え、魚価の安値が続いている。	
		製造業（食料品）	あまり変化はないものの、お盆や夏休みのイベントでは、かなり人の動きがあり経済効果があったと思われる。	
		製造業（化学工業）	更なる原油高により、コストは大きくアップしたが、価格転嫁が出来たため状況に変化はない。	
		製造業（金属製品）	良い状態でキープしていると思われる。	
		運輸業（道路貨物運送業）	近年、7月から8月はあまり動きがないように感じられる。景気が上昇しているとの報道を耳にするが、各業界のM&Aは暫く続き、実力のある経済活動にはなっていないように思われる。	
		金融業	マンション建設など一部の業種においては好転しているが、全般的な消費の伸びは相変わらず鈍く、景気好転の兆しは感じられない。	
		保険業	景気の良い話が聞かれない。	
	不動産業	地方に関しては地価の下落が続いている。特に、神栖市ではヒ素の問題が尾を引いている。		
	い	雇用	人材派遣業	鉄鋼業及び素材メーカーは依然として需給が逼迫している。
			民間職業紹介業	相変わらず求職者（登録者）数が伸びず、人材不足によりマッチングに困難が生じている。
			公共職業安定所	業種や職種により充足率に格差があるものの、求人数は前年度並みに確保できている。
			求人開拓員	建設・物流関連の地元中小企業では、仕事量は増加しているものの、経営面は厳しいとのことである。
や や 悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者	農業においては、7月末頃まで日照時間が短かったため、特産の芋などの生育に悪影響があった。企業においては、一部の大企業は良くなっているようであるが、下請け企業の完全回復には至っていないと思われる。	
		コンビニエンスストア	8月からの天候不順の影響により、売上げが前年を下回っている。	
		自動車販売店	来店客が減少している。	
		小売業（酒類）	顧客の来店回数が減少しており、また一人当たりの買上点数も減少している。	
		日本料理店	不動産関係の客が減少しており、景気の良い話も聞かれない。	
		タクシー運転手	あやめ祭りや夏祭りが終わり、やや悪くなると思われる。	
		観光名所	ガソリンの値上げもあり、特別な催しなどがないと、シーズンオフの観光地には出向かなくなっているように思う。	
		パチンコ店	来客数が減少している。	
		クリーニング店	たばこ農家やトマト農家では、5月～7月の天候不順により作物の出来が悪かった。また、米も8月、9月と天候が回復したものの、安値のようである。	
	企業	農業関係者	天候不順による出荷量の減少に加え、燃料価格が高騰している。	
悪	家計			

(4) 県南地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
良	家計	商店街代表者	売上げが良くなっている。
やや良くなっている	家計	スーパー	買上点数が増加している。特に、飲食業関連客の買上点数が増加している。
		スーパー	お盆期間を含め、昨年を大きく上回る売上げを達成することができた。客数・客単価も伸びている。ギフト商品の売上げも順調に伸ばすことができ、景気が良くなっていることがうかがえる。
		スーパー	お盆商戦も好調であり、客数及び客単価も増加している。
		コンビニエンスストア	プラス1品でおでんや中華まんといった季節商品を購入する客が増加しており、客単価の上昇が見られる。
		自動車販売店	高額な車は相変わらず低調であるが、新車を検討して来店する客が増加しており、動きが出てきたように感じられる。
		農産物直売所	7月までの低温長雨により野菜価格の高騰が続いたため、比較的安価な直売所への来客が増加し、9月になってもこの傾向が続いている。
		農産物直売所	天候不順により集客数が心配されたが、売上げ、客数ともに前期及び昨年を上回った。
		専門スーパー	客数が回復している。
		都市型ホテル	以前は、商品価格のアップに客は敏感に反応し、来客数の減少に繋がることもあったが、今回の販売商品単価の引き上げにおいては、客から特段の指摘もなく、景気が回復していることがうかがえる。
		旅行代理店	バスツアー客（1泊2日）の予約が増加傾向にある。
		旅行代理店	夏期より客に動きがある。
		ゴルフ場	夏場の天候が極端に不順にならなかったため、客の動きが良かった。
		美容室	感謝セール割引券を発行したため売上げがアップしている。また、祭りやイベントにより7月から8月にかけては浴衣の着付けが多かった。
		建築設計事務所	業務依頼が増加してきた。
企業	企業	製造業（窯業・土石製品）	当社の状況からは景気が良くなっている感はないが、先日発表された基準地価などを見てもつくば市周辺の景気は良くなっていると思われる。
		製造業（窯業・土石製品）	原材料費は高止まり傾向にはあるものの、民間からの受注が増加してきている。
		運輸業（道路貨物運送業）	主要荷主の状況から、貨物の動きが活発になってきている。時期的なこともあるが、製品の販売が順調であると思われる。
		不動産業	売買仲介件数が伸びている。
雇用	雇用相談員	つくばエクスプレス沿線の宅地開発が活発で、駆け込み的な商業施設のオープンもあり求人難が続いている。また、新聞の折り込みによる求人広告も相変わらず多い。当所においても派遣会社からの求職者紹介の依頼が続いている。	
変わらない	家計	スーパー	無駄な買い物はしないように感じられる。
		家電販売店	液晶、プラズマTVといった地上デジタル放送を受信できる商品は堅調に伸びており、買替えが進んでいる。
		和食食堂	ファミリー層の減少など、客数の減少が続いている。
		洋食食堂	定年退職、誕生日、結納などで15～20名程度のパーティー客の予約はあるものの、食の好みとしては和食店へ向かうのではと思われる。
		寿司店	仕入先の市場関係者からは暇であるとの声が連日返ってくる。
		都市型ホテル	ビジネス客が多いため、お盆期間は宿泊客が伸び悩んだが、このところ多少回復している。
		ゴルフ場	来場者数にそれ程変化がない。
		ゲームセンター	目立った変化はないが、客の商品選別は厳しくなっている。
レジャー施設	売上げが例年並みである。		

(4) 県南地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	家計	美容室	定年退職者が多く、支出を抑えているように思われる。
	企業	農業関係者	農産物価格の低迷により消費に明るさが見られない。また、雇用の拡大についても限定的であると見受けられる。
		製造業(食料品)	納品先や仕入先において特に目立った商品もない。夏期に入り多少売上げが増加したものの、ダンボールや石油製品の値上げにより利益を維持することも難しい状況である。
		製造業(食料品)	マスコミなどでは、景気が上向いていると報道されているが、食品業界においては感じられない。
		製造業(飲料)	相変わらずコストダウンに取り組んでいる。
		製造業(印刷・同関連業)	同業者の営業マンとの会話においても景気が良い話は聞かれず、厳しい話しか出てこない。また、競争も激しく製品価格も低下している。
		建設業	6月、7月とやや受注が増加する傾向にあったが、8月中旬から9月にかけてピタリと止まってしまった。
		建設業	近隣の工業団地においては工場の増築など設備投資が活発である。一方、地元の建設業者においては破綻や業種転換が見受けられ、全体としては景気は変わっていないように思われる。
		建設業(設備工事業)	マスコミでは景気が良くなっていると報道されているが、顧客の財布のヒモは依然として固く、値引きをしてくる客がかなり多いことから、建設業界においては景気が良くなっているとは思われない。
		金融業	取引先の状況を見ても、受注額や販売額が伸びている様子もなく、変化は実感できない。
	雇用	人材派遣業	多業種に渡って人材不足になっており、好調な企業も業績を伸ばしきれないと思われる。
		求人広告	大きく人の流れが変わった様子もなく、全体的に変化はないと思われる。
		公共職業安定所	求人・求職とも僅かな伸びは見られるものの、ほぼ横這いである。
学校就業関係者		学生に対する求人状況に変化はない。また、求人が増加しているためか、失業者に対する訓練コースが定員割れしている。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	スーパー	客単価が低下している。
		コンビニエンスストア	6月はタバコ税増税により駆け込み需要があったが、7月以降はタバコの売上げが落ちている。また、平年より気温が低かったため、冷たい麺類やドリンクの売上げが落ちている。
		衣料品販売店	つくばエクスプレスの開業により競合店が出店し客数が減少している。
		ガソリンスタンド	今年に入り原油価格の高騰が毎月続いており、特に運送会社においては運賃を上げてもらえないとのことであり、さらに厳しい状況であるように感じられる。
		タクシー運転手	営業回数が減少し、売上げが落ちている。
		タクシー運転手	原油価格の高騰や年金引き下げの影響でやや悪くなっている。
		パチンコ店	競合店が増加している。
		住宅販売会社	物の購入の際、慎重になり二の足を踏むケースが多く見られる。
企業	製造業(食料品)	例年のことではあるが、ギフトシーズンが終了し一服感がある。	
	建設業	5月末までは年度末の工事の延長などもあり昨年比やや減で留まっていたが、6月から8月は例年以上に工事が減少しており、同業者においても状況は同じようである。	
悪 く な っ て い る	家計	洋食食堂	8月の夜の部の落ち込みがここ数年で最悪であった。
	企業	製造業(食料品)	景気が良くないという話を耳にすることが多くなった。
		製造業(非鉄金属)	受注が前年比で5%強、前期比でも8%程度減少している。また、値上げを認めない大手企業もあり、原材料費高騰による価格転嫁も70%程度である。

(5) 県西地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良			
やや良くなる	家計	スーパー	雇用環境の改善，ボーナスのアップなど，以前と比較すると明るい話題を多く耳にする。
		農産物直売所	客数，客単価とも上昇している。
		旅行代理店	夏休みは例年客数が伸びる時期ではあるが，今年は昨年よりやや個人客の動きが良かったように感じられる。
		ドライブイン	商品を購入する客は少ないように思われるが，利用客は増加している。
		ドライブイン	やや商品の売上げが伸びている。
		ゴルフ場	来場者数が前年を上回っており，特にビジターが増加している。緩やかに景気が回復してきているように感じられる。
	企業	製造業（窯業・土石製品）	問合わせや工場見学客が増加している。客の動向からは少しでも早く建立したいという傾向がうかがえる。
		製造業（一般機械器具）	他社と比べ見積依頼が多く，受注もある。また，取引先の仕事量も増加している。
		運輸業（道路貨物運送業）	電気・化学関係の客が増加している。
		不動産業	賃貸物件の法人需要が増加している。
	雇用	人材派遣業	求人数が増加している。
		求人広告	求人募集が少しずつ増加している。
		公共職業安定所	製造業関係や小売業において求人が増加している。
	変わらない	家計	商店街代表者
商店街代表者			客単価に変化がない。
スーパー			客数は前年並みであり，点数・単価も上昇していない。
コンビニエンスストア			買上点数に変化がない。また，代替商品を購入しないという消費行動にも変化が見られない。
家電販売店			買上点数に伸びがない。
ガソリンスタンド			物流関係の仕事量に変化が見られない。
和食食堂			それなりに忙しいものの，売上げが上向かない。また，経費が高んでいる。
和食レストラン，割烹			季節的に例年変化がない時期である。ただし，家族単位で外食する機会が増加しているように思われる。特に，単価が1,500円前後の店舗は良くなっている。
都市型ホテル			夏が終わり動きがない。
タクシー運転手			世間では景気が上向いていると言われているが，自分の所では変化がないと話す客が多い。
タクシー運転手			商店街の様子や工業団地へ向かう客の話など，どれをとっても変化は感じられず，良くも悪くもないようである。ここ半年位前からは変化がなく，活気が感じられない。
ゴルフ場			予約状況に変化が見られない。
パチンコ店			状況に特段の変化が感じられない。
ゲームセンター			アミューズメント施設での客の滞在時間の短縮化が見受けられる。一方，購買品については選別の傾向が強いものの，買いたいものには支出していると思われる。
理容店	前年と比べ売上げ及び客数に変化がない。		

(5) 県西地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	家計	理・美容店	客の来店サイクルに変化がない。
		住宅販売会社	集客に伸びがない。
	企業	農業関係者	生活環境に変化がない。
		製造業（食料品）	石油製品の値上げに対し、製品価格への転嫁が出来ない。
		製造業（化学工業）	半導体パッケージ関連製品は好調を維持している。
		製造業（電気機械器具）	来客数に変化がない。
		金融業	全体的に売上げは横這いであり、報道されているような景気の回復は感じられない。
		サービス業（コックアウト業）	原油価格の高騰がかなり響いている。
	雇用	学校就業関係者	製造業の受注量に変化がない。
		就職相談員	求人数、求職者数とも増加しているものの、雇用条件があまり良くないためマッチングに結びつかない。
や や 悪 く な っ て い る	家計	コンビニエンスストア	天候・気温が安定せず、客の動きに波が大きい。また、コンビニ業界に限ったことではないが、頻繁にキャンペーンやセールを実施することで一時的な回復は見られるが持続していない。
		衣料品販売店	猛暑ではあったが、売行きが良い実用品はチラシ特價品ばかりであり、夏物衣料についても値下げ処分品ばかりが動いていた。客は安さばかりを求めており、消費の二極化が見られなくなったように思われる。
		自動車販売店	前年実績をクリアできない。
		和食食堂	夏休みが終わり外出する機会が減少している。
		和食食堂	つまみやドリンク類の注文が少ない。
		都市型ホテル	天候不順に加え、ガソリン・灯油・生鮮食料品などの値上がりにより経費が増大し、経営が圧迫されている。
		レジャー施設	ガソリン・軽油の値上げにより家計に直接影響が出ている。
		クリーニング店	例年衣替えシーズンが終わると低迷する。
	建築設計事務所	東京や千葉の同業者は多少良くなっているという話を耳にするが、当地域においては大手住宅業者に押され悪化しているのが現状である。	
	企業	製造業（印刷・同関連業）	天候不順により衣料品や飲料といった季節商品の売上げが低調であったとのことであり、身の回りで良い話は聞かれない。以前は、東京の好景気が半年から1年後に地方にも波及していたが最近はその傾向もなくなり、益々中央と地方の格差が拡大している。
製造業（印刷・同関連業）		受注単価の下落が止まらず、原材料の値上げも予想される。	
製造業（金属製品）		引合い件数が減少している。	
建設業		原油価格の高騰により材料費が値上げされているが、受注金額は競争が激しいため低下している。都市部では好景気と言われているが、当地域においては良いとは言えない。	
サービス業（広告業）		予算が縮小されているためか、6月までは良かったが7月以降悪化している。	
悪	家計	タクシー運転手	マイカー利用が多く、駅での乗車率が低下している。

景気の判断理由

2 景気の先行き判断理由

(1) 県北地域【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
良くなっている	家計	居酒屋	予約が増加している。客の話では、業績が改善し残業も増えている様子である。
		観光型ホテル	紅葉及び忘年会シーズンとなり、問い合わせも増えている。
	企業	製造業（電気機械器具）	通常より長い半年先納期の受注も増え、部品等の入荷・製造が間に合わない状況であり、業界全体が多忙な様子である。
やや良くなっている	家計	スーパー	状況に変化がなければ、このまま緩やかに良くなっていくと思われる。
		スーパー	緩やかではあるが右肩上がりになっており、今後もこの傾向が続くと思われる。
		スーパー	職種によっては雇用不足による求人案内が増加しており、給与の上昇が見込まれる。
		スナック	ボーナスにより財布のヒモが緩むのではと期待している。また、忘年会や新年会の時期にもなるため、売上げが伸びると思われる。
		和食食堂	原油価格の高騰にも馴れれば人も動くと思われる。
		タクシー運転手	10月より地元の工場が忙しくなるとのことなので、タクシー利用客が増加すると思われる。
		ゴルフ場	安い料金設定が浸透し、都心部からのバスバック客が増加してきている。また、来場回数も増加してきており、低料金のゴルフ場を検索しながらプレーしているとの話を聞く。
		美容室	年末に向け客数の増加が見込まれる。
	企業	水産業関係者	小型船の主力であるシラス漁が先行き不透明であるものの、大型船（まき網船）が近年にない好漁となってきた。
		製造業（電気機械器具）	この先の受注案件がある。
		製造業（電気機械器具）	原油価格の高騰が懸念されるものの、景気が悪いという声が少なくなってきており、少しずつ良くなっていると思われる。
		金融業	金利上昇により、消費者の購買力が刺激されることを期待している。
		不動産業	金利上昇や消費税率アップの議論などにより、消費マインドが上昇しており、購入時期の前倒しを検討する顧客が増加してきた。
雇用	求人広告	さくらシティ日立のオープン及び年末により商業施設に活気が出てくると思われる。また、バイパス道路の整備により渋滞が緩和されれば人の動きも出てくるのではと思われる。	
変わらない	家計	コンビニエンスストア	景気が回復する要因が見当たらない。
		衣料品販売店	客数の増加が見込めない。
		衣料品販売店	商品の変化により単価の上昇は見込めるものの、数量の伸びが期待できない。
		自動車販売店	購入時期を先延ばしにする傾向にあり、車検を受ける客が増加している。
		農産物直売所	行楽シーズンが終了し、来客数は横這いになると思われる。
		小売業（酒類）	仕事はあるが利益に結びつかないとの声が多く、地元企業の景気回復待ちの状態である。
		レストラン	地元の大手企業の事故等によって街は死んだような状況であり、景気に変化はないと思われる。
		観光型ホテル	秋の予約状況を見ても例年と変化がない。
		旅行代理店	受注内容から見ると変化はない。
		タクシー運転手	12月は忘年会で一時的に売上げが伸びると思われるが、その後は変化はないと思われる。
		タクシー運転手	ガソリン価格の上昇や消費税増税を懸念する声が多く聞かれる。
		ドライブイン	3ヶ月前はガソリン価格の高騰の影響で夏のドライブが控えられると懸念していたが、自動車が唯一の交通手段であるため、影響は見られなかった。先行きも同様に影響はないと思われる。

(1) 県北地域【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	家計	レジャー施設	良くなる要因が見当たらない。
	企業	林業関係者	夏場の下刈作業も終了し、9月中旬頃からは素材の生産が増加するため、市場でのだぶつきが予想される。
		製造業（食料品）	例年、秋から売上げが増加する傾向にあるが、今年は資材、燃料、ガソリン価格が高止まりしており、あまり期待はできない。
		製造業（一般機械器具）	景気が変動するような材料が見当たらない。
		製造業（電気機械器具）	顧客の在庫が減少傾向にあり、新製品が立ち上がる時期となっている。ただし、原材料費の上昇を考慮するとあまり変わらないと思われる。
		製造業（電気機械器具）	取引先の生産拠点の海外移転が一段落し、移転製品が増加傾向にある。一方、原材料の非鉄金属類の価格が15～30%程上昇しており利益を圧迫している。
		製造業（電気機械器具）	原油高などの懸念材料はあるものの、引き続き製造業関連の好調が見込まれており現状とは大きく変わらないと思われる。
		製造業（電気機械器具）	取引先の下期の計画を見ても、現状のまま推移する予定となっている。
		製造業（輸送用機械器具）	市況品価格が高止まり傾向であり、引き続き経営が圧迫されると思われる。
		建設業	景気が向上するような話は聞かれない。むしろ、仕入れコストの上昇などにより不安感が強いように思われる。
		建設業	公共事業、民間事業とも地域格差があり、伸びは期待できない。
	情報通信業（情報サービス業）	年末から年度末にかけて商談が増加することが期待できるが、自民党総裁選の結果が景気に影響すると思われる。	
	雇用	人材派遣業	先行きも好調を維持するものと思われる。
公共職業安定所		管内主要企業の業況調査においても、先行き厳しい見方を変えておらず、雇用人員について過剰感を持っている。特に、原油及び原材料費の高騰の影響で、製造業や運輸業においては利益が減少しており、厳しい見方をしている。	
学校就業関係者		企業の求人に変化はないと思われる。また、企業の従業員対象の講座に対する問い合わせにも変化が見られない。	
求人開拓員		設備投資をしてまで仕事量を増大させる事業所がまだまだ少ない。	
やや 悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者	買物客の郊外大型店へのシフトは、今後益々広がっていくと思われ、商店街の個人商店は立ち行かなくなると思われる。
		コンビニエンスストア	コンビニエンスストアに対する期待度が低下している。消費行動の変化によりコンビニ業界は悪化すると思われる。
		家電販売店	昨年同期は薄型TV・DVDなどが売上げを押し上げたが、今年は新しい要素もなく厳しいと思われる。
		ガソリンスタンド	大都市の好況に反比例して、地方は悪化するという声を多く耳にする。
		タクシー運転手	工場の話では、悪くなる傾向にあるとのことである。
		ゲームセンター	余り金のかからないアウトドアで休日を過ごしているという話をよく耳にする。
		クリーニング店	客数及び客単価とも低迷している。また、ガソリン価格の上昇が家計を圧迫している。
		住宅販売会社	来場者数が減少しており、引き続き金利の上昇、ガソリン価格の高騰なども懸念される。
悪	家計		

(2) 県央地域【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
良く	家計	タクシー運転手	12月は忘年会などのため年間で一番忙しい時期になる。
	企業	製造業(精密機械器具)	営業の情報から判断すると、引合い件数は増加傾向にあり、今のところ悪くなる要素が見当たらない。
やや良くなっている	家計	スーパー	先行きも買上点数及び客単価の伸びが期待できる。
		専門スーパー	売上げが順調に推移している。ただし、競合店の売価が上昇しない限り、当店も原価の上昇を価格転嫁できない状況にあるため、今後メーカー、問屋、運送業とひずみが出てくるのが懸念材料ではある。
		割烹料理店	業種によっては、忙しくなりつつある人が増加しているように思われる。
		都市型ホテル	忘年会シーズンになるため一層動きが活発になると思われる。
		タクシー運転手	忘年会などの宴会や歳暮などの買物の客が増えて活気がでてくる。
		タクシー運転手	年末の繁忙期に期待したい。
		ドライブイン	来客数が増加傾向にあるため、やや良くなっていると思われる。
		ドライブイン	このまま客数も増加し、消費も活発になっていくと思われる。
		美容室	例年のことではあるが、正月前のため12月は忙しくなる。
		建築設計事務所	ワンランク上のマイホームを求める傾向が見受けられることから、先行きに明るさが見られる。
いる	企業	製造業(印刷・同関連業)	受注が好調である。
	雇用	求人広告	年末に向け、雇用に積極的な企業が増加してきている。
		公共職業安定所	大型食品店及び大型電気店が年内にも郊外へ進出する予定となっており、求人増が見込まれる。
		求人开拓員	雇用においては人の動きが少ない時期であり、求人・求職ともやや減少すると思われる。一方、ボーナス商戦やお歳暮などで消費は拡大すると思われる。
変わらない	家計	商店街代表者	景気は良くなっているように思われるが、ガソリンや石油製品価格の高騰が家計を圧迫し、購買力が低下することが懸念される。これから冬に向かうため、灯油の値上がりの影響がさらに懸念される。
		百貨店、総合スーパー	企業業績の改善がそのまま消費に繋がってこないと思われる。また、企業にも格差があり総体的には回復感が少ないと思われる。
		百貨店、総合スーパー	クリスマス及び年末商戦となるが、周辺のショッピングセンターに分散することが予想され、現状と変わらないと思われる。
		スーパー	上場企業の景気は上向きであるとの報道があるが、地方には効果が波及していないように思われる。
		コンビニエンスストア	ここ1年低調であり、先行きも大きな変化は感じられない。
		自動車販売店	ガソリン価格は高止まりした状態であり、燃費を気にする客が多くなったように感じられる。
		レストラン	秋に向け季節の食材を使った企画商品を販売しているが、予約状況の伸びに変化は見られない。
		観光型ホテル	消費税の動向など、景況の不透明感により、必要とするもの以外には支出を控えると思われる。
		タクシー運転手	景気が良いという話も聞かれない。
		観光名所	一年で一番人出がある時期を迎えるが、予約状況からは例年並みである。
		ゴルフ場	シーズンオフに入るため予約状況に伸びが見られない。また、冬季優待制度を実施しても申込みが増加していない。
		ゲームセンター	水戸市付近への客の集中は変わらないと思われる。
		レジャー施設	夏季が好調であった反動により、秋以降は落ち着いてくると思われる。
		理容店	忙しい割には収入にならない状態が続くと思われる。

(2) 県央地域【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	家計	住宅販売会社	金利の上昇により客が動いているだけであり、全体的には勝ち組・負け組がはっきりしてきていると思われる。
	企業	製造業(食料品)	特別な要素も見当たらず、しばらくは現状のまま推移すると思われる。
		建設業	状況は安定しており、良くも悪くもならないと思われる。
		運輸業(道路貨物運送業)	競争が激化しているようであり、製品価格のアップが進んでいない。
		金融業	一部で好業績企業が見られるが、地元商店街の物品販売や飲食店などは前年並みの売上げを確保することが難しい状況となっている。
		不動産業	来店客数の増加が見込めない。
		サービス業(広告業)	年末に向けた販促ツール制作の時期になるが、昨年と受注件数は変わらない。
雇用	人材派遣業	1月から3月に向けて予算を残すため、10月から12月の雇用は現状維持に努められると思われる。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者	石油製品は軒並み値上げされており、原油高の及ぼす影響が大きくなっている。
		スーパー	良くなる要素が見当たらない。
		家電販売店	年内にも石岡市に大型ショッピングセンターが出店する予定となっており、消費者の流出が予想される。
		農産物直売所	金利の上昇により家計が圧迫され、消費が鈍ると思われる。
		専門スーパー	資材関係の値上げが続いており、特に灯油価格が不安定であるため、多少動向が鈍くなるとと思われる。
		パチンコ店	パチンコ産業は例年9月から11月は、売上げ及び利益が落ち込むが、客の動向を見ても日を追うごとに集客数の低下兆候を感じる。
		レジャー施設	原油価格の高騰による交通費の値上がりの影響を強く受けられると思われる。
企業	製造業(食料品)	原油価格の高騰が原材料費に反映し景況は悪化していると思われる。	
	製造業(金属製品)	原材料高による設計変更があるため、一時的に受注量が落ちる。	
	サービス業(コンクリート業)	住宅需要が供給に対して先細りになるとと思われる。	
悪	企業	製造業(窯業・土石製品)	受注件数、受注額が予想を下回っている。

(3) 鹿行地域【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由	
良				
やや良くなっている	家計	家電販売店	地上デジタル放送のスタートにより、テレビの買替え需要が期待される。また、洗濯機の単価もアップしている。	
		農産物直売所	予約販売や会社関係の贈答品の取引が増加している。	
		割烹料理店	忘年会などでの利用が増加すると思われる。	
		観光型ホテル	予約状況を見ると、例年より少し多い。	
		タクシー運転手	七五三や忘年会の時期になるため、やや良くなると思われる。	
		ゴルフ場	12月は例年一時的に入場者数が増加する。鹿行地域全体で見ると、入場者数は僅かながら増加傾向にある。	
		住宅販売会社	展示場に初めて来場する若い客は相変わらず多いが、団塊の世代の客も増加傾向にある。	
	企業	農業関係者	冬に向けての作物は順調に育っており、台風などの被害さえなければ、良くなっていくのではないかと。	
		製造業（食料品）	年末に向けて人の動きがあると思われ、現状と比較すれば景気は良くなると思う。但し、年末商戦において前年を上回することは難しいのではないかと。	
		製造業（印刷・同関連業）	取引先の景気がやや回復しているように感じられる。	
		不動産業	アパートの需要（入居者）が増加してきている。	
	変わらない	家計	商店街代表者	大手企業の好調な収益予想、大手木材メーカーの進出など明るい材料が見られる。一方、コンビニなどの進出が続いており、従来の小売店は変わらず厳しい経営状況にある。
			商店街代表者	ここ1、2年の動向を見ると、景気が良い話が出ては消え、消えては出るといった状況であるが、実際は期待感からのものであり、当分は現状のまま推移すると思われる。
スーパー			良くなる要因も悪くなる要因もなく、現状維持であると思われる。	
スーパー			各競合店のチラシ内容及び発行回数などから推測して、客数に大きな変化はないと思われる。客の大半は有職主婦層であるため、食料品や衣料品などの支出は極端には上昇しない。店舗の立地環境から見て商圈の拡大は難しいため、いかに固定客の来店頻度を上げられるかが鍵である。	
コンビニエンスストア			大きな期待をできる事柄もなく、全体的に停滞感があり、現状のまま推移すると思われる。	
小売業（菓子販売店）			原油高の影響が懸念される。店でもよく話題にのぼっている。	
スナック			人の動きがなく期待できない。	
洋食食堂			17か月連続で前年比アップしているが、そろそろ頭打ちの時期に近づいていると思われる。	
観光型ホテル			予約状況に変化がない。	
タクシー運転手			買物で利用する客が少ない状況にある。また、大企業の景気が良いと言われているが、利用客は増加していない。	
パチンコ店			業界全体でも景気回復につながる明るい兆候はない。	
理容店			年末に向けて利用客が見込まれる。	
クリーニング店			3ヵ月後も景気は安定しないと思われる。	
クリーニング店			飲食店においては、飲酒運転の取締りが強化された影響で売上げが悪化すると思われるが、周辺農家においては、好天が続けば変わらず推移すると思われる。	
住宅販売会社			景気上昇が期待できる要素がない。	
企業			製造業（飼料）	12月頃は事業を再開した養鶏業者の完全回復期にあたるとともに、飼料の需要期にもあたるため、良い状態で推移すると思われる。
	製造業（化学工業）	電気蒸気の単価値上げが予想されており、少なからず影響が出るとされる。		

(3) 鹿行地域【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
変わらない	企業	製造業（窯業・土石製品）	原油価格の高騰による陸海輸送費のコストアップや公共事業の伸び悩みにより厳しい状況は続いているものの、近隣に大型店が進出したことによる採算品の販売により多少バランスは取れている状況である。また、年末はボーナス時期でもあるため、小売業や飲食産業では伸びが予想されるが、全体的には現状維持であると思われる。
		運輸業（道路貨物運送業）	少しずつ良くなっている感じもあるが、現在の景気が今後も続くという声が多いように思う。
		金融業	景気回復の材料がなく、変化するとは思われない。
		サービス業	全体的には大きな変化はないと思われる。
	雇用	人材派遣業	当面、鉄鋼業及び素材メーカーでは繁忙な状況が続くと見られる。また、大手企業の設備投資も旺盛である。
		民間職業紹介業	地域の労働人口から見ても、飽和状態の感がある。
		公共職業安定所	新規学卒者対象の求人は昨年よりも出足が好調であるが、職種によっては充足できない求人も多く、今後一般中途採用求人への転換も考えられる。
		学校就業関係者	特段、大きな動きは見られない。
		求人開拓員	原材料価格の高止まりが懸念される。
やや悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	買上点数が減少しており、景気回復とはいい難い状況である。
		自動車販売店	普通車の販売台数が減少している。
		小売業（酒類）	客からは酒を飲む機会が減少しているという声が聞かれる。
		小売業（金物店）	民間工事もほぼ完了し、工事が少なくなりつつある。
		ドライブイン	燃料価格が高騰しており、光熱費が嵩む冬に向けて消費の拡大は期待できない。
		室内装飾業	新築物件が少ないので、売上げの伸びは期待できない。
	企業	製造業（化学工業）	今後の原油動向では、物流関係を始めとてかなりのコストアップが予想される。しかし、中小のユーザーでは価格転嫁は遅れ気味になるのではないかと。
製造業（金属製品）		最近の動きが大きかったので、今後は良い状態ではあるものの、緩やかに下降していくと思われる。	
悪	家計	パチンコ店	大型店が増加しており、先行きは悪化するとと思われる。

(4) 県南地域【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : まだた回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
良くなっている	家計	商店街代表者	「パンの街つくば」プロジェクトが成功している。
		洋食食堂	ボーナスが回復していない企業もあり一抹の不安はあるものの、要所所で予約が入っている。
		洋食食堂	パーティーシーズンなので、例年通り客数が増加すると思われる。
	企業	製造業（食料品）	暮れのギフトシーズンとなり、来店客数は3倍以上になり売上げも増加する。
やや良くなっている	家計	スーパー	一部の飲食業関係客からは人手不足で困っているとの声も聞かれ、景気が悪い話は聞かれない。
		スーパー	お盆を好成績で乗り切ったことで、年末にもかなり期待が持てる。12月は消費者の購買意欲が強くなるので、今以上に良くなると思われる。
		スーパー	近隣の工業団地においても採用が増加しており、以前よりも景気の良い話を耳にする。これに伴い消費が増えることを期待している。
		スーパー	総理大臣が交代し、最初のうちは経済も活性化すると思われる。
		家電販売店	新築マンションの建設ラッシュが続いており、入居者が増加すれば消費に繋がるとされる。
		農産物直売所	天候にもよるが、新規顧客が増加しており好調が続くと思われる。ただし、来店客の多くは自動車を利用しているため、ガソリン価格の値上がりによる影響が懸念される。
		農産物直売所	秋の行楽シーズン、味覚の秋、年末商戦などに期待される。
		専門スーパー	客数及び客単価の上昇が見られる。
		都市型ホテル	今のところ、天災による農作物への影響もなく、やや良くなっていくと思われる。
		旅行代理店	つくばエクスプレスの駅から研究学園都市施設や筑波山周囲を見学する貸切バスの受注が発生してきている。
		旅行代理店	客が動き始めている。
		ゴルフ場	来場する回数が増加している。また、単価の下げ止まりを感じる。
		ゲームセンター	これ以上悪化するとは思わず、今後は財布のヒモが緩んでくるとされる。
		美容室	まちづくり活性化バスにより、中心市街地の集客に少しずつ効果がでている。
		建築設計事務所	今年度中の業務が多い。
		良くなる	企業
製造業（飲料）	売上げが伸びており、求人も出している。ただし、他社の求人も増加しているため採用が難しい状況である。		
製造業（窯業・土石製品）	様々な面で二極化しているが、新総裁になり地方の公共投資へ目が向けられることが期待できる。		
運輸業（道路貨物運送業）	燃料費の高騰による運賃の値上げは厳しい状況ではあるが、新規の問い合わせもあり、今後貨物の動きは活発になるとされる。		
雇用	求人広告		年末のイベントなどにより、現状よりは良くなると思われる。
変わらない	家計	コンビニエンスストア	タバコ税増税を機に禁煙する人が増加しているなど、良くなるような環境の変化はない。
		コンビニエンスストア	景気回復要因が見当たらず、客の消費動向に大きな変化があるとは思われない。
		衣料品販売店	ここ数ヶ月の売上げ、客数、客単価に変化がなく、良くなる要因も悪くなる要因も見当たらない。
		自動車販売店	良くなるような話題がない。
		ガソリンスタンド	景気は良くなっているとの報道があるが、中小企業はまったく良くなっていないとの声が多く聞かれる。地域格差もあると思われるが、まだまだ中小企業の光は見えない。

(4) 県南地域【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由	
変 わ ら な い	家計	寿司店	忘年会などの宴会の予約には少し動きがあると思われる。	
		都市型ホテル	多少宿泊稼働率は上昇する予定ではあるが、団体割引などが多く売上げには変化がないと思われる。	
		タクシー運転手	代行業者の影響のためか、夜の営業が少なくなってきた。	
		ゴルフ場	予約状況にも大きな変化がない。	
	企業	農業関係者	農村地帯においては公共事業が少なく、恩恵は一部に止まっているように感じられる。また、年末に向け景気が良くなる材料は見当たらない。	
		製造業（食料品）	例年、年末にかけて景気が上向くが、今年の現状からは良くなるとは思われない。	
		製造業（印刷・同関連業）	大企業と中小企業の格差が大きくなっていく様に見える。新聞では銀行業や大手製造業の設備投資が増加しているとの記事が掲載されているが、中小企業は厳しい状況が続くと思われる。	
		製造業（窯業・土石製品）	民間からの受注が増加しているが、全体的な底上げがないと一過性のもので終わってしまう可能性がある。また、原材料費の今後の動向が不透明である。	
		建設業	受注及び単価の減少により、工事高は引き続き昨年割れであると思われる。	
		建設業	年末にかけて引合いが増加する時期であるが、今年は低調であり景気上昇ムードも一段落したように思われる。また、つくばエクスプレス沿線の開発は進んでいるものの、相変わらず地元業者の施工物件は少なく、地域への貢献度は低い。	
		建設業（設備工事業）	年末の状況を見ても、明るい見通しがない。	
		金融業	土木・建設関連企業は、公共工事の受注額が伸びず、民間工事においても都市部の大手企業が請け負い地元業者への還元が薄いため、苦戦が続くと思われる。また、個人消費については特に刺激する材料もなく現状のまま推移すると思われる。	
	不動産業	つくばエクスプレス関連の特需要素があるが、安定するか懸念される。		
	雇用	人材派遣業	多業種に渡る人材不足が続き、先行きも業績が伸び悩むと思われる。	
		公共職業安定所	雇用情勢は横這いで推移すると思われる。	
		学校就業関係者	求人動向においては変化はないと思われる。	
		雇用相談員	原油高や素材高の影響により、相変わらず下請け中小企業に対する価格面の要求が厳しい。一方、雇用環境は良いが、正社員とパート・契約社員との賃金格差は続くと思われる。	
	やや悪くなっている	家計	スーパー	石油の値上げの影響があると思われる。
			和食食堂	夏の状況からすると、秋から冬も期待できない。
パチンコ店			人気機種が検定切れになる。	
レジャー施設			原油価格が高騰している。	
住宅販売会社			一般消費者においては、景気が良くなったと感じている人があまりいない。	
企業		建設業	引合いが極端に少ない状況である。	
悪	企業	製造業（非鉄金属）	3か月インフォメーション売上予想が直近1か月前情報に比べ10%程度減少しており、9月以降に大手自動車メーカーの減産も行われる。また、原材料費は高止まりであり、10月以降のコストダウン要請もあるため、生産価格はインフレで販売価格はデフレの状況が続くと思われる。	

(5) 県西地域【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良 く	家計	スーパー	企業間の格差は出てくると思われるが、全体的に企業業績は上向くと思われる。
		和食レストラン, 割烹	忘年会や新年会の時期に入るが、今年は企業の業績も良いようなのでかなり期待している。
や や 良 く な っ て い る	家計	商店街代表者	年末になり購買力が増すと思われる。
		農産物直売所	今の状況が続けば年末にもなるためやや良くなると思われる。
		都市型ホテル	年末になるので期待したい。
		旅行代理店	団体客の動きは今一つではあるが、個人客は増加すると思われる。
		パチンコ店	ボーナス時期ということもあり、一時的ではあるが景気が良くなると思われる。
		クリーニング店	夏物衣料や家庭では洗濯ができない普段着などが出てくる。
	企業	農業関係者	秋作野菜が順調な価格で販売できれば、農機具やトラックなどの購入へと繋がってくる。
		製造業(金属製品)	引合い件数の増加が見込まれる。
		製造業(一般機械器具)	しばらくは現状が続くと思われる。
		運輸業(道路貨物運送業)	大手企業が設備投資を行っている。
		不動産業	売買客が増加してきている。
雇用	人材派遣業	求人数が増えており、売上げの増加が見込まれる。	
	学校就業関係者	増産のための設備投資や工場増設の話を耳にする。	
変 わ ら な い	家計	スーパー	前期からの傾向に変化が見られず、先行きも変わらないと思われる。
		コンビニエンスストア	景気が上向きであっても所得が増加しない限り消費行動にも変化は見られない。
		コンビニエンスストア	消費者にとっては買物に対する選択肢が増えており、より価値のあるものを購入したいという心理が益々大きくなり、競争が激しくなると思われる。
		家電販売店	客の購買意欲が上向いてこない。
		ガソリンスタンド	新規進出企業もなく変化はないと思われる。
		和食食堂	例年10月から11月は売上げが伸びない。
		和食食堂	来店時間帯に幅がなく回転率が良くない。
		和食食堂	客からはまだまだ景気は良くなっていないという話を耳にする。
		タクシー運転手	ここ数年変化はなく、急激には変わらないと思われる。
		タクシー運転手	街の様子や客の話からは活気が感じられず、上向く要素は見当たらない。
		ドライブイン	ガソリン価格が低下すれば、利用客も更に増加し商品購入客も増えてくるとは思われる。
		ドライブイン	多少は商品や客の出入りが多くなっているように思われるが、景気が良くなっているとは思われない。
		ゴルフ場	予約状況に変化が見られない。
		理容店	来店サイクルが相変わらず長い。

(5) 県西地域【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	家計	理・美容店	会社の仕事が忙しくなってきたと話す客はいるが、売上げには変化が見られない。
		建築設計事務所	引合いが非常に少ない状況である。
		住宅販売会社	急に良くなるとは思われない。
	企業	製造業（食料品）	燃料価格が2倍強になっているが、製品価格への転嫁は難しい状況である。また、ナフサの値上がりによりポリ原料である包装材料の価格も上昇し、当面厳しい状況が続くと思われる。
		製造業（印刷・同関連業）	多少無理をしても設備投資をして新規受注に活路を見出したい。
		金融業	設備投資が増加する見込みが少なく、景気は横這いであると思われる。
		サービス業（コンサルタント業）	石油関連製品が高止まりしており、変化はないと思われる。
	雇用	求人広告	特別な要因で求人数が増加している訳ではなく、単なる自然増である。
		公共職業安定所	求人は増加しているものの、パートの求人が多く、ミスマッチが生じている。
		就職相談員	現状がしばらく続くと思われる。
や や 悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者	地元の地価が前年比5%下落と発表され、消費者においても大規模商業施設がある地域へ流出し続けると思われる。
		衣料品販売店	経営努力により昨年より業績は良いものの、現状から見ると先行き良くなるとは思われない。
		自動車販売店	客の代替サイクルが延びており、新型車の投入もない。
		都市型ホテル	最近は宿泊や飲食が控えられる傾向にある。
		ゴルフ場	原油価格の高騰によりレジャーや娯楽は控えられると思われる。
		ゲームセンター	アミューズメント施設への来店頻度が低下すると思われる。また、水戸市近隣への一極集中傾向が出てくると思われる。
		レジャー施設	原油の供給に変化の見込みがない。
悪	企業	製造業（印刷・同関連業）	受注単価の下落がさらに進行する傾向にある。
		製造業（化学工業）	半導体パッケージ関連製品以外が低下傾向である。
		製造業（電気機械器具）	社内の打合せなどにおいて、先行き不透明もしくは若干悪化するとの声が出ている。
		建設業	銀行金利の上昇により設備投資に不安がある。
		サービス業（広告業）	景気回復の兆しがあるのか会社案内を作成する企業が増加してはいるが、悪い方向に向かうように思われる。
悪	家計	タクシー運転手	景気は良くなっているとされているが、大企業ばかりが良くなり、中小企業までは波及しないと思われる。

景気の判断理由

3 その他の意見

(1) 県北地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	中心商店街の百貨店が撤退し、周りの商店は苦戦を強いられてきたが、11月に新規開店が決まり多少は売上げが戻ってくることを期待している。
	スーパー	新しいモノやサービスへの興味が強くなっているように思われる。
	スーパー	ガソリン価格の高騰により車での外出を控えている。また、紙類が値上がりしてきている。
	スーパー	雇用が安定してきたためか、若い夫婦の新築マイホームが目立つ。
	コンビニエンスストア	ガソリン価格の高騰など、生活必需品の値上がりによりコンビニでの買い控えが出てきているように思われる。
	コンビニエンスストア	天候に影響されない近場への行楽客が増加している。特に、天気予報が分かりづらい時や度々外れる時はこの傾向が顕著に現れる。
	衣料品販売店	運転免許のない中高年者であっても家族や知人と一緒に日立や水戸方面まで買物に出掛けるという話を良く耳にするようになった。
	衣料品販売店	大型店の出店により土日の客が減少している。
	家電販売店	購買行動に慎重さが目立つ。
	農産物直売所	昼食を持参して店頭で食事をする客が見受けられる。
	レストラン	11月11日にさくらシティ日立がオープンする予定となっており、街が活気づくのではと思われる。
	居酒屋	高単価の宴会、主婦層の利用などが増加している。
	スナック	分譲マンションが次々と建設されては完売しているのを見ると、決して不景気とは思えない。飲食に遣っていたお金を住宅や預金に回す人が増加しているのではないかと思われる。
	和食食堂	スーパーの駐車場に空きが目立っている。また、海水浴場においても人出が悪いように思われる。ガソリン価格の高騰の影響なのか交通量も減少している様である。
	観光型ホテル	客は自分の価値観に合えば消費するが、そうでないものには消費しない傾向にある。
	タクシー運転手	周辺の状態を見ると、期待できる要素が生まれてこない。
	タクシー運転手	多賀駅前商店街はシャッター通りであり、客はまばらな状態である。
	タクシー運転手	バスの本数が少ないため、ひたち海浜公園や野球場への利用がある。また、常陸那珂港に大手建設機械メーカーが進出する予定となっており、現場へ向かうための利用があると思われる。
	ゴルフ場	つくばエクスプレスの開業により、土浦近辺への来場者を多く見かける。また、練習場では早朝練習をする定年退職者が多いとの話を耳にする。
	ゲームセンター	増税の一方給料は下がっている。また、親と同居しアルバイトやフリーターをする自立困難な子供が急増している。
レジャー施設	夏頃から、祖父母と一緒に来園する若い家族が多く見られるようになったが、支払いは祖父母の方がしている様子である。	
レジャー施設	周辺に相次いで大型店がオープンしているので、求人募集をしても人材が確保できない。	
理容店	土木・建築関係での廃業が増加している。	
美容室	11月にさくらシティ日立がオープン予定となっており、求人チラシも見られる。これに伴い、以前のような集客を期待している。	
クリーニング店	簡易型女性専用フィットネスの駐車場はいつも溢れている。また、セルフサービスのガソリンスタンドが混雑している。	
企業 関 連	林業関係者	約40年間営業していた製材工場が閉鎖した。
	水産業関係者	不良債権処理が今日になって進められ、抵当物件を地元の意向を考慮せずに処理専門会社に売却する金融機関が多く見られるようになった。
	製造業（食料品）	例年に比べ、来春卒業予定の高校生の応募者が少なくなっている。大手の採用が増加したため、中小企業への応募が減少していると思われる。
	製造業（一般機械器具）	大手建設機械メーカーがひたちなか地区へ進出することが決まり、景気好転に繋がることが期待される。

(1) 県北地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
企業関連	製造業（電気機械器具）	常陸那珂港に進出予定の大手建設機械メーカーの影響を受けられる。
	製造業（電気機械器具）	ハローワーク、新聞広告、派遣会社を通して求人活動を行っているが、求人難である。
	製造業（電気機械器具）	10月以降、空調機などのメーカーが一斉値上げ（15～18%）を予定しているなど、一次材料費の上昇の影響が出始めており、景気のブレーキを感じる。
	製造業（電気機械器具）	近隣事業所においても新建屋の建設など設備投資が盛んになっているように感じられる。
	製造業（電気機械器具）	現在は輸出案件も増加しているが、現地生産の動きもあるため、今後の動向が気にかかる。
	不動産業	新規の分譲マンションや分譲住宅地、商業施設の計画があり、活性化に期待したい。
雇用関連	人材派遣業	正社員を採用する傾向が見受けられる。
	求人広告	全体としては大きく変化しているようなイメージは少ないものの、景気が良い企業と悪い企業の格差が拡大しているように感じられる。
	学校就業関係者	個人での講座受講者は減少傾向にある。
	求人開拓員	情報処理業界においては、システム開発や設計などの仕事が増加しているが、単価の減少により売上げの増加には結びついていない。

(2) 県央地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見	
家	商店街代表者	格差社会の広がりの影響により、業種や地域により景気の差が大きくなっていると思われる。	
	商店街代表者	通行量が前回調査の半分になるなど、中心市街地は大変厳しい状態が続いている。相次ぐ郊外型ショッピングセンターの出店の影響で大型店は撤退したままとなっており、中心市街地は空洞化している。	
	百貨店、総合スーパー	企業の経費削減の動きは縮小してきたが、売上げ水準も低下しており、景気上昇傾向にはなっていないと思われる。また、個人消費に関しては、価格よりも価値観が購入の判断材料となる傾向が強くなっているように思われる。	
	百貨店、総合スーパー	相変わらず特選ブランドの売行きは好調であり、誰もが認めるものは高額であっても消費意欲が高い。	
	スーパー	ショッピングセンターが2店舗新規出店する予定があり、淘汰される店舗が出てくると思われる。	
	コンビニエンスストア	ガソリン価格の高騰の影響からか、単価の低い商品の販売動向が良い。	
	家電販売店	後継者不足や利益の減少により、若者が勤めに出て年輩者が一人で経営している店舗が増加している。	
	自動車販売店	先行きに不安を持つ人が増加している。	
	専門スーパー	プラスチック、石油関係商品の値上げが増えている。	
	計	専門スーパー	10月以降、灯油関係の需要が伸びてくるが、価格が昨年比で120%、一昨年比では2倍に近いため暖房用品の動向が鈍くなると思われる。
レストラン		中高年の女性客の利用が少し伸びている。	
割烹料理店		大人数の宴会は少ないものの、友人同士や少人数での宴会や食事が少し増加したように思われる。	
観光型ホテル		団塊の世代の利用が圧倒的に多いが、可処分所得の増加が見込めないため、需要頻度に反比例して消費単価を抑える傾向にあり、総売上の増加が見込めない。	
旅行代理店		同業者間の競争が益々激しくなっているように感じられる。	
連		タクシー運転手	ガソリンなど物価の上昇により、今後景気が悪くなってくると思われる。
		タクシー運転手	マスコミなどで景気回復が報じられているが、客の話からは、まだまだ地方にはその兆しが見られないようである。
		タクシー運転手	郊外に大型店舗が相次いで出店したため、市内中心部の集客が大きく悪化しており、今後益々空洞化していくことが懸念される。
		タクシー運転手	平日は高齢者やビジネスマンの利用が多いが、休日は全くと言っていい程利用がない。
		ゴルフ場	非会員からの料金値引き交渉の申入れが増加傾向にある。世間では景気回復基調と言われているが、レジャー産業の回復には至っていないと思われる。
	ゲームセンター	ニューポートひたちなかファッションクルーズのオープンにより、県央地区以外のショッピングセンターの集客に影響が出ていると思われる。	
企業	製造業(印刷・同関連業)	原油価格高騰の影響により原材料の値上げが表明されているが、印刷費には転嫁できず利益を出すことが益々難しくなると思われる。	
	製造業(窯業・土石製品)	借入金の長期金利が上昇し経営を圧迫している。また、ガソリン価格の上昇により製造原価が高騰しているが、販売価格に転嫁出来ない状態である。	
	製造業(金属製品)	燃料や金属等、原材料が値上がりしている。	
	製造業(精密機械器具)	設備投資を控えていた取引先の業界に1年程前から設備投資の動きが出てきた。これに伴い、高額装置の引合い及び受注が増加傾向にある。	
	運輸業(道路貨物運送業)	ゴルフ練習場が混雑している。	
	情報通信業(情報サービス業)	比較的好況であると思われる中小企業において、最近投資対効果に対する考え方がシビアになり、投資を躊躇しているように感じられる。企業間格差が拡大し、多くの企業が淘汰されていることを考えると、収益至上主義は当然の動きとは思われるが、度が過ぎると価格面の競合により市場の活性化が失われてゆく懸念も感じる。	

(2) 県央地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
企業 関連	金融業	大型店内に出店したテナントにおいても、一部撤退が見られる。
	サービス業（広告業）	ブライダル業界は非常に活発であり、今年から来年にかけて多くの施設がオープンする。すでに飽和状態であるため益々競争が激化していくと思われる。
	サービス業（コンサル外業）	住宅建設関連において、地方都市にもグローバル経済の影響が見られる。
雇 用 関 連	人材派遣業	派遣業において、紹介予定派遣サービス（派遣社員として一定期間就業後、正社員や契約社員に転籍できる制度）が非常に増加してきた。
	求人広告	物流業界が忙しくなっているようであるが、利益は出ていないとのことである。
	公共職業安定所	平成19年3月卒高校生の8月の求人数は前年比38.5%増で、求人倍率は0.94倍（昨年0.62倍）となっている。景気回復や団塊世代の大量退職を見越した採用増が要因と考えられる。
	学校就業関係者	水戸駅南口に建設された複合商業施設の集客力が注目される。
	求人開拓員	景気回復が4年半も続いているという報道を耳にするが、求人開拓の事業所訪問においては、景気が良くなっているという話は全く聞かれず、むしろ悪化しているという話が聞かれ、景気回復の実感は感じられない。

(3) 鹿行地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	経費節減のために軽自動車を使用する人が多くなったように感じられる。
	商店街代表者	7, 8月は夏祭りや花火大会など、イベントが盛んな時期ではあるが、景気に関係なく来場者は多く、イベントの経済効果は高いように感じられる。
	商店街代表者	ここ2, 3年コンビニを始め、チェーン店の進出が多く、地元商店が圧迫されている。
	コンビニエンスストア	景気回復と言われているが、身の回りでは感じられない。小売業においては売上低下が続いているが、最低賃金が引き上げられたため経営が苦しい状況にある。
	コンビニエンスストア	客の様子を見ていると、必要最低限の商品しか購入しない、無駄な支出はしない傾向が伺える。ガソリン価格の上昇が消費傾向に大きく影響していると思われる。
	家電販売店	安価な商品を購入する客と高級志向の客とで二極化している。
	自動車販売店	ガソリンの値上がりにより、軽自動車の商談が増加している。
	農産物直売所	高級車に乗った客が増えたように思う。
	小売業(酒類)	最近の度重なる飲酒事故報道により、居酒屋など酒類を販売提供する店舗の仕入が減少している。
	小売業(金物店)	地元で輸入木材工場が建設される予定であり、少しは景気が良くなるのではと期待している。
	洋食食堂	旧市街地の空洞化が言われて久しいが、8月末に開催された夏祭りでは街中が人の波で埋まり、普段は人の数が数えられるほどしかない商店街が熱気に溢れていた。商業者として考えてみれば、潜在的な客はこれだけ存在しているのだから、店に呼びこむための努力・工夫がもっと必要なのではと考えさせられた。
	割烹料理店	自動車の買取店や中古車販売店が増えたように思われる。
	日本料理店	100円の回転寿司店は行列ができるほど賑わっている。
	タクシー運転手	運転代行業の方が多忙である。
	タクシー運転手	運転代行を利用する客が増加している。また、Jリーグ観戦での利用客が減少している。
	ドライブイン	8月下旬より新米の売行きが好調である。8月は家族連れが多かったが、9月に入り団体客が増えてきた。
	パチンコ店	ガソリンが値上がりしている。
	クリーニング店	リストラを行ったり、早期退職者の募集を行っている企業が見られる。
住宅販売会社	固定金利の上昇が止まりつつある。また、消費税が上がる前に住宅を購入したいという話も最近よく耳にする。	
企 業 関 連	製造業(食料品)	鹿島港北埠頭の整備が進み、倉庫なども建設され始めており、稼働してくれば多少は期待が出来ると思われる。
	製造業(飼料)	食品や飼料は他の業界ほど影響を受けていないので、今のところ大きな景気変動はない。
	製造業(化学工業)	求人募集をしてもなかなか集まらず、条件面での要望も高いようである。
	製造業(金属製品)	病院や大型店舗の建設が続いており、良い状態であると感じる。
	建設業	旧大野村全域が市街化調整区域になるという計画があり、益々景気が悪くなることが懸念される。
	運輸業(道路貨物運送業)	軽油の値上げによる影響で、損益的に厳しいとの声が多い。
	金融業	利幅の縮小がさらに進み、経営体質が脆弱な企業の生き残りが問われる傾向にある。
	保険業	農家の話では、サツマイモは高いが、コシヒカリは1俵13,000円程にしかならないとのことである。
	不動産業	アパート及びマンションが建設ラッシュである。また、鹿島地域の企業は景気が良いため、従業員の募集が増加している。

(3) 鹿行地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
雇用 関連	民間職業紹介業	最近、大手企業は直接求人募集をしており、人材ビジネス会社への求職登録は減少している。
	公共職業安定所	重化学工業（コンビナート）においては、原油高の影響が、今後の取引先の需要に対する不安材料となっている。
	求人開拓員	大手企業が多いという地域特殊性のためか、事業規模による二極化の話を地元企業から耳にする。

(4) 県南地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	つくば市は、つくばエクスプレスの効果により賑やかになっている。
	コンビニエンスストア	週末の客数が落ちており、夏休みも同様であった。余暇の使い方が多様化しているように思われる。
	衣料品販売店	バーゲン、処分においての衣料品の売上げが不振になっている。
	家電販売店	つくばエクスプレスの乗車率が増加傾向にあり、つくば市の人口は増加している。今後、つくば市の景気は良くなっていくと思われる。
	専門スーパー	ガソリン及び灯油価格の上昇が懸念される。
	ガソリンスタンド	高速道路のガソリンスタンドの8月の売上げが前年比167%と伸びた。高速道路は3か月に1度の価格設定であるため、1か月間安く売れたことが要因である。実際、レギュラーガソリンの価格が高速道路で137円、日本平均価格が145円であった。
	洋食食堂	イベント会場は賑わっているものの、渋滞するほどの自動車の通行量に比べて歩行者は少ないようである。
	洋食食堂	自営業者の景気は良くないようである。
	寿司店	企業の生産が増加しているなど、景気が上昇しているとのニュースを聞くが、実際に企業で働いている人にはほとんど実感が無いとのことでありギャップを感じる。
	都市型ホテル	つくばエクスプレスが開業し1年が経過するが、同業者においても差別化されていない店舗は、勝ち負けがついているように思われる。
	旅行代理店	つくばエクスプレス駅から筑波山へのシャトルバスの運行が好発進したが、筑波山には駐車場が少ないため交通渋滞により不評であった。秋のシーズンを迎え渋滞が予想されるので利用者の減少が懸念される。
	タクシー運転手	タクシー業界においても値引き合戦をしているように思われる。
	ゴルフ場	相変わらず低料金日に予約が集中する。
	美容室	市町村合併により物価が上昇した。
	企 業 関 連	美容室
建築設計事務所		住宅及びビル建設並びに民間及び公共工事に関する業務の話題を多く聞かれる。
農業関係者		原油価格の高騰などにより家計が圧迫されており、貧富の差が益々はっきりしてきているように感じられる。
製造業(食料品)		つくばエクスプレスの研究学園駅周辺は、住宅建設及び大型店出店により先行き明るさを感じられる。
製造業(食料品)		近隣の機械製造工場は活況に見えるが、食料品製造業においては、原材料及び梱包材価格の上昇を製品価格へ転嫁できない状況にある。
製造業(食料品)		景気が上向いていると言われているが、事業規模や地域により大きな開きがあるように思われる。
製造業(印刷・同関連業)		つくば市においては、マンション建設が盛んであり、売り出すとほとんどが完売する状況である。個人においても二極化が拡大しているように思われる。
製造業(窯業・土石製品)		4月頃と比べると製造部門の期間工の雇用が難しくなっている。
製造業(非鉄金属)		都銀及び地銀が相次いで短プラを0.25%引き上げており、今後も金利の上昇が続くと思われる。また、自動車メーカーにおいては、普通乗用車の販売不振が目立ってきている。
建設業		身近な人は、口を揃えて景気は段々悪くなっているところぼしている。借金がなければすぐにでも辞めたいと話す経営者も10社以上ある状況である。
建設業		建設業界は他の業種より悪化しているように思われる。
建設業		最近、工事の請求書とともに価格改定の通知が送られてくるが多くなった。原油価格の高止まりがメーカーの自助努力の範囲を超え、価格に転嫁されるようになってきている。
金融業	つくばエクスプレスの開業直後は、沿線を中心として好景気ムードであったが、開業後1年が経過し沈静化してきている様子である。一方、市内においてはマンションの建設ラッシュが続いているが、供給過剰と噂され、景気の刺激材料にはならない様である。	
不動産業	賃貸客が減少している。また、ローコスト住宅への転居が目立つ。雇用においては、正規採用を控え、派遣社員の求人が多い。	

(4) 県南地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
雇用 関連	求人広告	求人広告に対する求職者の反応が不安定でとまらず、人材不足が日常化している。
	学校就業関係者	高校生に対する求人が増加する気配があるためか、または私立専門学校の開校が増え、そちらに進学できる余裕がある家庭が増えたためか、昨年から当校への入学希望者の減少が顕著になっている。
	雇用相談員	マンションや商業施設の建設は活発であるが、施工は東京の業者が主であり、地元業者の恩恵は少ない。

(5) 県西地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
家計関連	商店街代表者	地元では外国人が数多く、人口の1割程に達すると思われるが、専用店で消費するため一般の店舗には来店しない。
	商店街代表者	普段財布のヒモが固い人でも、必要なものであれば高額であっても支出している。
	スーパー	質の高い食料品が売れ始めている。客は自分のスタイルで購買を決定しており、品質重視と価格重視の二極化傾向がある。
	コンビニエンスストア	キャンペーンやセールなどにおいて期間終了間際の購入が目立っており、「いざという時のコンビニ」という位置付けが以前にも増して強くなっているのではないかとと思われる。
	衣料品販売店	世界的な小売業でも業績が悪化している。もはや安さだけでは駄目だと思われる。
	自動車販売店	ガソリンの値上がりにより、大型車の販売が鈍っている。
	和食食堂	ガソリン価格の高騰により交通量が減少し、夜の家族連れ客が減っている。
	和食食堂	新規オープンした店舗にもあまり勢いが感じられない。
	和食食堂	大型店が出店した影響からか、地元の店舗が閉店するという噂を耳にする。
	和食レストラン、割烹	都内では特別な祝事（ハレの場）で利用される飲食店の売上げが好調なようであり、県内にもあと1年程で好景気の波が来るのではないかと期待している。
	都市型ホテル	都市と地方の格差を実感する。
	旅行代理店	一部の客からではあるが、高額ツアーの予約が少しずつ増加している。
	ドライブイン	ツアーバスが増加したように思われる。
	パチンコ店	相次ぐ業界大手の出店により、閉店に追い込まれる店舗もあるなど、二極化が見られる。
	理・美容店	近隣に低料金の店舗が出来たが、当店への来客数に変動はないようである。
	企業関連	クリーニング店
建築設計事務所		個人事業においても明るさが見られない。
農業関係者		ガソリンの値上がりにより、8月頃から車の動きが少なくなったように思われる。
製造業（印刷・同関連業）		自助努力しても好結果に繋がらないのが地方の現実である。どの業種においても勝ち組・負け組といった格差が益々拡大しているように思われる。
製造業（窯業・土石製品）		県外の取引状況も見積りや見本（石）の扱いが増加している。
製造業（金属製品）		納期が極めて短い受注が多い。
建設業		一部の企業は良いようであるが、まだまだ景気が回復してとは思われない。
金融業		つくばエクスプレスが開業し1年が経過したが、沿線からは距離のハンディキャップがあり経済的な波及効果は見られない。
サービス業（広告業）		景気が回復しているところも増えてはいるが、オープン直後や時代の流れに乗れていないところは苦しい状況である。
サービス業（コンサル外業）		石油製品の値上げが激しく、関連製品を使用している企業にはまともに影響が出始めている。
雇用関連	人材派遣業	食品関係の求人が増加している。
	求人広告	最近、ガソリン価格が落ち着いてきたように思われる。